

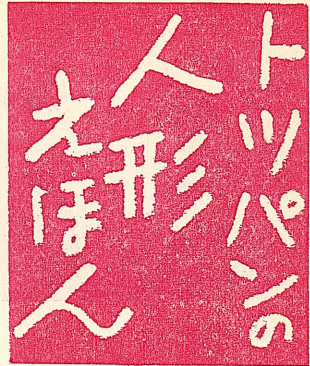
家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十五卷 第一號



日本幼稚園協會



この絵本をみてくださる方は、みなさん口々に、ずいぶん手間のかかった本ですねと云われます。金くたいへんな仕事です。でも幸いなことに気がよく合った四人の人たちがこゝまで、この仕事を育てて下さいました。構成と文の飯沢匡さん、人形制作の川本喜八郎さん、デザインの土方重巳さん、天然色写真撮影の隅田雄二郎さんです。結局四人の方々の子供への深い愛情が結晶してこの美しいシリーズができてきたのです。

N・H・Kの人気者

やんぼうシリーズ

*やんぼうにん

ぼうとんぼうと

おともだち

*やんぼうにんぼうと

んぼうとなまげぎる

*やんぼうにんぼうと

んぼうとあひるのこ

あかずきんちゃん

じゃつくとまめのき

びーたーとおおかみ

三びきのくま

三びきのこぶた

三びきのこぶたの

たんじょうび

ぷーぼんせんせいの

あふりかたんけん

ぷーぼんせんせいの

うみのぼうけん

金のがちょう

各一〇〇円

東京日本橋茅場町

トツパン

昭和三十一年度新学期用品

☆ 保育日誌 (用紙)

☆ 出席カード・貼紙 (武井武雄先生考案)

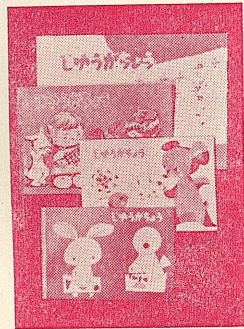
☆ せいさくちよう (大・小)

☆ じゆうがちよう (特①②・A・B・C)

☆ おりがみ (二十色、文部省選定標準色準拠)
(特製・並製A四寸・五寸V)

☆ まんてんくれよん (十二色・十色・八色)

童画界の重鎮武井武雄先生が一生懸命作って下さったすばらしくおもしろい出席カード、美しく楽しい装幀のせいさくちよう・じゆうがちよう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよん、幼児教育になくってはならないフレイベル館の新学期用品。

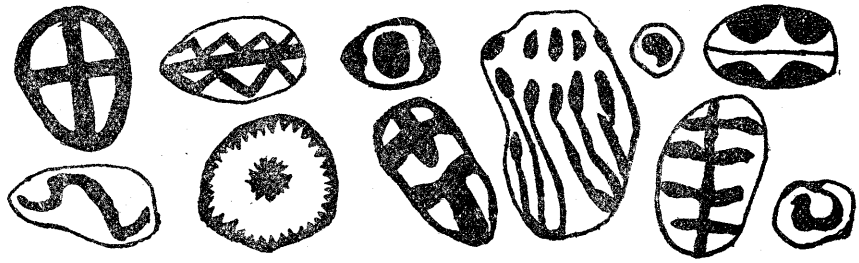


なお、右のほか種々取揃えてございます。お申込みは、至急当社代理店へ！

カタログお送りいたします。

東京都千代田区
神田小川町二の五

株式会社
フレイベル館



幼児の教育目次

——第五十五卷 一月号——

表紙……………堀 文子

巻頭言 新しい年を迎えて……………及川ふみ(2)

英国における幼稚園教員養成機関……………蠟山政道(4)

☆沖縄の幼児教育(一)☆……………村山貞雄(15)

園舎の改善……………戸村キエ(21)

幼稚園におけるリーディング・レディネス……………黒田成子(24)

愛珠幼稚園の史料倉庫を訪う……………新床よしこ(29)

《劇あそび》おもちゃ……………村田修子(31)

冬の室内あそび……………関 治子(34)

★セールスマンシップ・ショーマンシップ★……………北川台輔(38)

研究会より……………徳 久 孝(41)

幼児教育としての年中行事について……………岩村幾代(46)

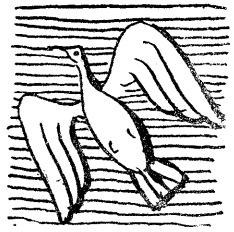
幼稚園における視聴覚教育……………玉越三朗(52)

▽昭和三十年年度研究会をかえりみて△……………津 守 真(56)

編集後記にかえて……………

倉橋記念文庫について……………(50)

編集主幹 及川ふみ 編集主任 津守 真
 協力委員 牛島義友 齋藤文雄 多田鉄雄 波多野完治 山下俊郎 (五十音順)



新らしい年を迎えて

及川ふみ

こころ、二年間の幼児の教育の問題として、大きく取りあげられたものうちに、幼児の教育内容の研究、指導方法の研究などの問題が考えられる。前者は主として、幼児の教育の基本的なものであり、本質的なものでもある。後者はその基本的な問題をいかに指導してその成果をあげていくかという、実際的な指導の方法の問題である。

この二つの問題は、幼児の教育の実際にあたっているものとして、共に重要な研究の焦点であることはいうまでもない。

幼児の教育内容の研究としては、さきに文部省の初等教育課においても、幼稚園教育内容として、幼稚園教育関係者の研究会開催の度毎に、研究協議事項として検討されていた。近くその成案が関係者の前に公示されることであって、その日の一日も早きを鶴首しているわけである。

又昨夏、私共お茶の水女子大学附属幼稚園内幼児教育研究会においても、研究同人が相よって、これ等の諸問題について日頃語らいあっているものを小冊子「幼児の教育内容とその指導」としてまとめてその試案を発表した。

その他、全国各地に開催された、講習会や、講演会、研究会表会などの主題も、多くはこれ等の問題によって満されていた様な感じが強かったようにおもわれる。

さらに昭和三十一年度より、幼児指導要録の改訂がこの頃文部省より公示された。その評価する教育内容に対しても、健康、社会、言語、自然、音楽リズム、絵画製作、と明示された。小、中、高、大学等の学校系列の中で最もすべての点において歩みのおそい幼稚園もここで一応その教育内容や、その指導の方法などについても一般的な軌道が敷設されたかの様な感がさせられてきたことは、幼児教育の上に安定感がつくられた。

そこで今後の問題は何であろうかということである。そこには又新らしい種々な問題もおこってくるであろうし、又今日までの問題のうちにあっても、残されたいくつかのものもあるのであらう。

昨夏、私は北海道を始め、東北、北陸の各地の幼稚園の実績をみる機会をもった。その際の最も大きい所感は、この幼稚園の教育内容と、その指導の実際に対し、二つの点を痛感させら

れたことである。

その一つは、一般的な幼児の教育内容の基本的な理念の普及徹底であること、他の一つは、地域的によって教育内容の取扱い方法の研究という点であった。

かりに教育内容のうち、社会の取扱い方法という点からいってみると、家庭環境によつては著しく、社会を重点的に教育計画の中心として取扱わなくてはならない場合がある。例えば農村などの幼稚園では、幼児たちは入園前の生活、ことに家庭環境は社会性を育てていく好機が誠に乏しいのである。農家の普通状態として、隣接の家屋は少しいし、隣近所の交友関係も亦少いのである。又家人ことに母親は農事多忙にして、朝は早く、夜おそくまで外働が多く、子どもたちと直接お話する時間も少く、したがって愛情を充分に受けられないという、子どもの満されない気持からおこる安定感の欠如という望ましくない状態にあるものが多い。これ等の幼児が幼稚園に入園してくると先生や、友だちになかなか親しまない場合が多い。幼稚園に来ても、言葉をかわすこともなく、友人と遊ぶこともなく、保育室内にも入らない。時にはいつの間にか幼稚園から姿を消して家に帰ってしまう。先生はこれに気づくと、自転車で迎えに出向くということになる。中には家に迎えにいってもいないで母親のいる野良までも自転車を走らせなければならぬ時もあったとある先生は話されたことである。受持の先生の努力がようやくむくいられて、先生と親しくなると、今度は自分で先生を独占しようとする。先生と手をつないで、はなさない、

手をはなすとスカートをつかむという工合で片時も先生からはなれなくなる。他の子どもはこれを見て不満でたまらず、けんかになる。こんなことは入園の四月のはじめより七月の終り頃までもつづいていることである。

母親から受けた愛情の欠如の不満の根本問題から始めて、対人関係として、先生に対して、又友だちに対しての不安定な気持から、幼稚園全体の雰囲気は何となくおちつきと親しみがもたれずにいる、これ等の幼児の指導については、先生の相当の努力がはらわれなくてはならない。この類の幼児の型は多少はどここの幼稚園にもみられる点ではあるが、農村にある幼稚園の一部では特別に受持の先生の悩みでもあるのは事実である。この場合など教育内容のうちとりわけ社会面だけ特に最初に大きく取り上げて基本的な問題の解決をはからねばならない。そして時としては、他の教育内容も副的であったり、方便的であったりすることもやむを得ないことにもなるのではなからうかと思われる。又幼稚園の施設、設備の上でも、幼児の定員数との関係上、教育内容の指導の面で、又幾多の困難とたたかっている実状もきき及んだことである。

しかしいづれの困難の場合にあたって、これをいかに解決しようとする努力されつつ、明るい希望をもちつづけられていることにも、その力強さに大きなよろこびが感じられた。

年新しくなった。昭和三十一年の新春にあたり、新しく出されるであろう問題に、又残された問題に、共に事新らしくとりくんで、幼児教育進展にはげみたいものである。

英国における幼稚園教員養成機関

わが国の教員養成に資するために

蠟 山 政 道

これは去る十月十日、お茶の水女子大学附属幼稚園遊戯室において行なわれた、蠟山学長の講演を括めたものであります。我が国の教員養成の現状に反省と洞察の機会を与えるものとして、ここに掲載致します。

× × ×

此の夏ヨーロッパに参りまして、暇があったら幼稚園の教育について、どこかで見聞をしたかと思っておりましたが、僅かな期間でありましたし、日程が錯綜しておりまして、僅かに英国で最後の半日を、幼稚園関係の視察に当てることのできたわけであります。それに、がんらい予備知識も十分でなく、僅か二時間位の見聞であります。そこで得た印象を中心にお話してみたいと思います。

フレーベル・エジュケーショナル・インスティテュート

ロンドン市の郊外に、フレーベル・エデュケーショナル・インスティテュートという学校があります。それは英国において最も発達している幼稚園教員の養成所で

あります。名前はフレイベル・エデュケーションナル・インスティテュートといっているのでありますが、実際にはロンドン大学の教育学部の一部になっていっています。ロンドン大学には他にもいろいろのカレッジがありますが、これはその中の一つと考えればよいわけです。学生の人数は三百人で、三年のコースであります。そして、英国の大学全体に共通の特色であります。レジデンスを中心に行っております。つまり学生はみんな学校の寄宿舎に住んでいるわけです。それからチューターの制度を採用しています。このレジデンスとチューターの制度をもっていることが英国の大学の特色とされています。もちろん、一般のレクチャーの制度もあるし、いわゆる一般講義もだんだんふえてきて、チューターの割合は減少しております。ロンドン大学、オックスフォード、ケンブリッジなどの古い大学も次第に近代化して、新しい一般講義を中心していく傾向が見えますが、このフレイベル・インスティテュートは、古い制度にならって、レジデンスで制度もあって、同時にチューターをかなり多く採用しています。

このフレイベル・エジュケーションナル・インスティテュートは近所に附属幼稚園をもっておりますが、しかし幼稚園そのものは大学の経営ではありません。ただ大学と非常に密接な関係をもっておりますから、附属機関と云っていいのではないかと思えます。

この学校は、最初から教員養成というはっきりとした目的をもっておりますので、その点でははっきりした職業教育施設であります。またその規模も、三百人の定員といえば、一つのカレッジとして英国では相当大きい方です。イギリスの女子大学のレジデンシャル・カレッジの定員は、そう大きくはなく、大体二百位であります。しかも教員養成を目的として三百人の学生定員を擁しているということは、相当大きな規模と考えられます。建物も独立したのもっており、なかなか立派なものです。

フレイベル・エジュケーションナル・インスティテュートは、教員養成を目的としておりますから、当然のことですが、卒業生は教員としての資格を得られるように仕組まれています。その他に、英国にはフレイベル・ファウンデーションというものがあって、フレイベルの思想、学説を中心にして、幼児教育の研究をしています。相当古い歴史をもっていて、その団体が幼稚園の先生の資格を与える機関になっております。英国は単にここだけでなく、あらゆる方面にわたって、学校だけが免状を出すのではなく、学校以外の専門職業団体が沢山あって、免状を出しています。この場合も、フレイベル・ファウンデーションがその役目を演じているわけです。先程も申しましたように、この学校は、教員養成というはっきりした目標をもって、教職につく人を養成すること

を目的としておりますので、従つてその目的に従つて学校のカリキュラムの編成ができてゐることは当然であります。つまり母体である大学自体が一つの独立の目的をもつてゐるのです。教員養成をどこから委嘱されてゐるとか、例えば、現在の我が国のように、お茶の水女子大学に、臨時幼稚園教員養成所が委嘱されてゐるというのではありません。はっきりとした独立の機関だということが、この学校にはっきりした特色ができる理由だと思ひます。

フレーベル主義と英国の幼児教育

この養成所が特にフレーベル・エジュケーショナル・インスティテュートという名前をもつてゐるのは、もちろんフレーベルの学説に大きな影響をうけてできたためであります。つまり、フレーベルの学説を基礎として、英国の経験において幼児教育の理論と実際を發展せしめてきたということができるといふ。私はフレーベルの学説はよく知りませんが、でも、一般に伝えられてゐるところによりますと、フレーベル主義の教育はドイツでは非常に狭く解釈され、キングダーガルテンというものに限定して考えられてゐるようでありますが、英国ではそうでなくて、もっと教育全般にわたつて広く解釈し發展せしめてゐるようです。

英国の幼児教育制度は大変複雑でありまして、ナースリースクール、インファントスクール、ブライマリースクール等

いづれも重複しながら並立しております。ここでフレーベル・エジュケーショナル・インスティテュートの学生が、將來従事する教育対象の年齢範囲は相当広いようでありまして、二才から十一才までにわたつております。そして学生もそれに従つて専攻が分化しております。すなわち、第一部は二才から七才までの子どもを対象とするもの、第二部は五才から九才までの子どもを対象とするもの、第三部は七才から十一才及びそれ以上の子どもを対象とするものとなつてゐます。したがつて専攻の選び方によつては、小学校の免状とも重複してくるわけであります。この点、学校制度の違ふ日本とは、大分事情が異なります。

此の養成所に、フレーベルという名前がつけられてゐるもの一つ理由は、幼児の人間としての成長という考えを中心として教育理論が立てられてゐるということ、つまり全人間というものを教育の対象と考えてゐるというように解してよいでしょう。フレーベルの人間教育という大きなアイディアをもつとして教育課程も仕組まれてゐるように思われます。こういうように、フレーベル主義の教育というものが、英国では相当に広い巾をもつて考えられてゐるという特色があることを知つたのであります。その根本理念が、三年コースのこの学校の教育課程を編成していく基本になつてゐると思ひます。そこで次に三年コースの此の学校の養成課程をお話

し致しましょう。

教員養成の課程

先づ第一に、この養成機関、フレールベル・エジュケーシヨナル・インスティテュートは、ロンドン大学の教育学部に相当するものの一環であるということから、ロンドン大学の一般方針に合致しつつ、そこに幼児教育という限定を加えて、このカレッヂの特定の目的、すなわち、保育に従事する人を養成するという目的を実現しようとしていると考えることができるでしょう。従がって、その意味の職業教育を行なつて、この職業に従事するに足る能力と資格を与えるということが目的であります。そして、それに該当するカリキュラム、コースが考えられてくるわけです。

三年課程のコースは、先づ大ざっぱに分けて三つの部分から成り立っています。第一はプロフェシヨナル・コース、すなわち教育専門課程で、これは教職に従事する人が、理論的にまた實際的に、最少限度に持たなければならぬことがらは何かということにもとづいて作られています。その内容としては、教育の原理(心理学を含む)、教育実習、健康教育、教育理念の歴史、体育、宗教教育が含まれています。第二は、カリキュラム・コースといわれるもので、専門の教科に関する事柄が、教える対象児童を考慮して教授されるのであります。その内容としては、美術及び工作、地理、歴史、数学、

音楽、博物学、宗教に関する知識、英語となつております。更に第三に、特殊課程といわれるものがあります。これは、将来教職に従事する学生でも、年令的には十八才から入るわけですから、人間としてはまだ未完成で、その人たちの一般的な能力と教養を伸ばす必要があるわけです。それと同時に、元来、学生の個人々々には、それぞれ特殊の趣味もあるし、信念もあります。要するに人間としてのびてゆくために、特別にその個人に合致したコースを必要とするでしょう。そこで三年のうちのある期間を、職業教育としては直接に関係はなくとも、その人に特に適した分野で、特殊な研究をするように仕組まれているのが、この特殊課程であります。或る場合には、技術的に相当堪能な力を持ちうる程の訓練が施されます。この課程の内容として用意されているものは、美術(絵画及び彫刻)、英語及び英文学、地理学、歴史学、数学、音楽、博物学、陶器及び図案、宗教知識、織物で、学生はこの中から一つを選択して、一学年の後期から卒業まで継続して研究する機会を与えています。この点は又後にとり上げましょう。

第一と第二の課程では、教職のための職業教育という点が重視され、たえず、教育的にどういふ関連をもっているかという観点からとり上げられます。例えば、健康においては、衛生学とか、医学とかがとり上げられますが、それぞれの専

門分野の詳しい研究をするわけではありません。あくまで幼児教育というプロフェッショナルの目的でやるのですから、例えば衛生医学でも幼児の顔色をみて健康状況を判断するか、幼児のかかりやすい病気の早期発見をする能力を養うというようなわけです。又同時に、学生自身の健康、体力を養成することと共に、それがレクリエーションもかね、同時にそれによって、幼児の健康、体力をいかにして維持するかということも学生自身が認識するわけでありませう。こういう風に、教職ということが中心になると云っても、それは相当に広い巾をもった観点に立っているようであります。

この教職のための技能を充実させてゆくために必要なコースも、その中で学生が興味を感じれば、更に別の方向に伸ばしてゆくことができます。例えば心理学を学んでいるうちに、社会的な環境という問題に次第に興味をむいてくれば、社会とか或いは社会問題とかに関係せざるを得ないわけで、それは教育学の範疇だけではやってゆけないことになり、その方面のことを学ぶ機会が与えられます。又地理を例にとっても、教職の目的のためには、幼児が土地の距離をどうしてはかるか、などの如く、子どもに教えるのに必要な知識を教えればよいわけですが、学生が地理に非常に興味をもった場合には、学生自身のために、そういう研究に時間を与えている特殊課程と結びつきます。幼児教育に直接に関係があると

いうことだけを考えるならば、絵画、音楽、動植物等、それぞれ一応の知識をもっていけばこと足りるでしょうが、更に学生の個人個人の人間的要求を満足させるために、それらは更に特殊研究として伸ばされるようになっていくわけです。私はこのような教育課程の仕組みを大変に面白いと思えました。

非常に短い時間でしたが、その学校の本館を中心として、キャンパスの中に、いろいろ特別教室があることに気がきました。絵画、工作、粘土細工、織物などのために特別な部屋がありまして、十分に勉強できるような設備ができています。このような教育課程を見まして、ある一つの英国人気質と申しましようか、ある共通の特色があることに気がつきます。それは、二つの互いに相容れない目的を、理窟なしに調和するという才能であります。プラクティカル・アチャストメントとでも云いましょうか、理窟で割り出していくと、割り切れないものが実際にうまく調和して両立しています。この場合にも、職業教育を行なうと同時に、その人が持っている人間的な素質、能力を活かすということがうまく両立しています。職業教育としての知能、技術を伸ばすとともに、広い意味の人間教育をコースの上で調和してとりいれているのであります。

私は成人教育というものに大変に興味を持っております。

成人教育は、その人が社会的な地位や職業にかかわらずに持っている個々の才能を活かすものであります。それは特殊な人にだけ該当するものではなく、誰にでもそれぞれもっている個性を、興味、能力を伸ばし、それによって人間性を豊かにしてゆくことであります。この意味で、特定の職業のための養成を目的とする場合にも、人間性を満足させ、豊かにさせる人間教育を無視してはなりません。英国ではそこに一つの調和を見出しております。この点は、我々も学ぶべきではないかということをも更めて感じる次第です。

英国の女子教育

英国人共通の特色——矛盾の調和——ということを申したのですが、同様のことが女子教育にも見ることができません。

一たい、女子の大学というものが、男女共学の世の中で、どういう存在理由をもっているのか、男と女と区別して教育することにどれだけ価値があるのか、ということとは現代社会の大きな問題の一つであります。理窟で云えば教育の機会、方法において、男女の間に区別はないはずのものです。しかし、実際には我が国にも、女子大学が存在しています。

私は英国で昔の古い友人達や恩師に久々で会ひまして、自分は今日本で女子大学の学長をやっていると申しますと、或る人はたちどころにそれは古い制度だ、現代には女子大学などという制度は存在価値がないと申しますし、又或る人は、

それは大変良い制度である、どうかそういう美風を大いに保存し、発展させるようにと、ここでもまちまちの見解にぶつかったのです。しかし、英国では日本のような女子大学の制度はありません。しかし女子教育と男女共学という二つの矛盾することがらを巧みに調和しています。

どういふ調和かという点、勉強とか研究とか講義とかいふ点では、男女が機会均等になっていて、全く同じように一緒に学びます。その反面、英国の大学では前にも述べましたように、レジデンスの制度をとっておりますから、カレッジ生活では全く女子だけの生活が行なわれます。そこでは校長先生を始め、書記、小使さんに至るまで、全部女で、男はおられません。徹底的に女子だけの生活をしているのであります。一歩外に出れば、同じ大学の男の学生と一緒に講義もきき、研究もするけれども、カレッジそのものは全く女だけです。これが英国のやり方であります。

我が国では女子大学があつて、そこには男の学生はいません。従来で女子大学にきりかわつたところでは、入学試験を通うりさえすれば、男でも女でも同様に教育しなければならぬことになっています。ところが実際には、いろいろの面で女子が勉強しにくく、十分にその力を發揮できない場合が多いというのが実状であります。そこでは今の所調和する方法が見つかりません。そしてそういうような男女

共学の大学と、お茶の水のような女子だけの大学と、二つの違った制度が厳存しているのが日本の現状であります。(制度的にはアメリカもそうですが)これを一体どうして調和したらいいのか、我が国の大学の大きな問題であります。

新制大学における職業教育の位置

此の学校の古いことは及川先生に伺わないとよく分りませんが、とにかくこの学校などは、元は教員を養成する師範学校であったのが、終戦後は、教員を養成するのは此の学校の目的ではないということになったわけです。何故そういう考え方になったかというところ、何か職業的な教育をするということによって、大学教育そのものの価値が低下せしめられるのだという考え方はあるのではないか。もしそうならば、それは必ずしも正しくありません。職業的な教育をしたからと云って、その人間教育がおろそかになるとは考えられません。また、人間教育をしっかり行なう方法はあるということを考えるべきだと思います。

例えばお医者さんとか、弁護士というような職業について、そういう職業につく人を教育するということが、教育の中で占める位置が低いものであるとは私は考えません。むしろ、世の中がだんだんと専門化するときに、職業教育こそ必要なものであって、何故教員を養成する大学の価値が低いのか、その理由が分りません。職業教育をすることが、大学の学問

や研究の自由を向上させてゆくことに役立つこそすれ、学者の研究、或いは調査を低めるものとは考えられません。

英国の場合を考えてみますと、職業教育と学問研究との矛盾というような問題意識すらもっていないようであります。矛盾しないことが当然のことのように考えているのではないかと思います。そういう問題には一度もぶつからなかったのです。

社会意識や社会制度が日本の場合と若干違うので、日本の場合を同じ次元で考えることはできないかもしれませんが、一体、社会がそれ程専門化しない時代には、職業教育が非常に低く見られた時代がありました。また、東洋的な考え方に従がうと、技術とか専門とかいうことは、支配者のやることではないと考えられました。日本の場合には、昔の東洋思想の支配者というような考えから、専門家をいやしめた名残りがあられるのかもしれないと思います。

そもそも大学の伝統としては、クラシックの教育から始まったものであります。それが後に自然科学、技術というようなものが発展して、職業教育が盛になりました。そこでそういう専門をこえた、或いはそれを統合した教育の必要が認識され、その具体化がはかられるようになってきているのであります。

そういう意味で、私は職業的専門教育そのものの欠陥も知

っておりませけれども、それだから職業教育が低いものという根拠は全然ないと思います。

こういう点では、日本の社会には心理的に微妙なものがあ
るようでありませ。よく考えてみますと、われわれは職業を
通じて生活の資を得ているわけですから、職業はいやしいと
いうことを考える理由はないのです。けれども、職業教育は
何となく教育の本道ではないように考える傾向があります。

昔の三年間の専門学校よりも、旧制大学の方が偉いような錯
覚をもっていて、此の頃になって、その誤りがだんだんに分
ってきたのではないのでしょうか。英国では職業教育をやりな
がら、人間としての素質をどうしてのばすかということを通
剣に工夫し、学校の教育の課程の上で、それをどう調和する
かという問題を実際に考えているのであります。

英国のやり方が良いかどうかということは問題ですが、日
本の大学でも、むしろこのへんで、職業教育を行なう大学と
いうものの意味を考え直していったらどうなのでしょう。

過去の教員というものがおかれた社会的な地位や、文部省の
統轄の下にあった師範教育やそれに対する論争などにとらわ
れないで、今後教育にたづさわる人を養成することを目的と
する大学が、どのような教育をしたらよいかということと思
いきって考え直していいことではないかと思うのです。

英国の場合、教師の人間としての教育と、幼稚園の先生と

しての専門的な教育との調和がとれていて、それにたづさわ
る女性は、幼児教育者になるといふ目的をはっきりともって
いるとともに、その人が人間として立派な婦人である。女性
であるという誇りをもっております。この両方の目的が達成
できるように編成されているという点で、英国は一つの良い
例を示しているのであります。そして専門学校、職業学校と
して、いぢめられているというようなことは毛頭ないので
す。むしろそういうはっきりした職業的な目的をもっている
大学では、就職なども良いのであります。

幼稚園教員の社会的地位

御承知のように、英国の幼児教育の機関は、始め私立の制
度として発達しました。最近になって、これがナショナル・
システム、すなわち、学校教育制度の中に編入されました。
教育としてみるときは、幼稚園から、小学校、中学校、高等
学校、大学に至るまで、同じ国民的教育制度の一環でありま
して、その間に軽重の差別はないわけでありませ。

同時に問題になるのは、社会政策的な意味における、保育
制度、託児制度との関聯であります。英国では教員の資格
においては、全く同一の程度が要求されています。ただ実際
はまだすべての養成所が三年制度になっているわけではな
く、二年課程のものも多くあり、一級免状とか二級免状とか
の区別はあると思ひませ。

所定の水準に達している養成機関の卒業生は、俸給その他の給与水準で、小学校、中学校、大学の教育と少しも違いません。むしろ、私立の幼稚園などで非常に財政上豊かな場合には、小学校や、中学校よりもずっと高給をもってむかえられるという場合もあるようです。ここに述べた養成所も、学生数を三百人に限定していることは、相当志望者が多く、試験もなかなか厳しいことを示すものでしょう。この点、日本の場合には、なかなか面倒な問題があるようですが、幼稚園であろうと、高等学校、大学であろうと、教育としての差別があつてはならないものだと思います。そして英国においては、一定の同じ条件に該当した卒業生は、中学校、高等学校の先生に比べて、待遇上の差別はないと云つて誤まりはないと思います。

教科のシラバスについて

幼児研究にあたる人が、勉強しなければならぬ講義の内容とか、あるいはそれに関する学説とかいうことについては、講師の先生、あるいは教授の間で、必らずしも意見が一致していないようです。教師にとつても、学生にとつても、各人がある学説をどういう風に解釈し、批判するかという点については、それぞれの人の自由がなければならぬ。学生としても、いろいろ違った学説や、解釈の仕方を知つて、批判的に見るということは重要ことであります。

それでは各講座で取扱われ、教えられることは、担当講師の恣意に任せられ、その間に統一や調和がなくてもよいものかという点、決してそうではないでしょう。学生としては、いろいろ違った学説や見解を知つて、その矛盾を自分で克服していく能力をつけることが必要ですが、頭の中に不消化なもの残り、不消化な知識しかもたないときには、人間教育においても、職業教育においても、非常な損失だと思ひます。それでは、講師及び学生の自由を保ちながら、しかもその間に調和と統一をもつて進んでゆくのはどうしたらよいものでしょうか。

それに対する若干の答が、このフレージャー・エドゥケーショナル・インスティテュートのシラバスに見られます。シラバスとは、コース・オブ・スタディーのようなものであり、その大学で扱われる講座内容のかなり詳細な細目及び意義が含まれておりまして、各講義、又は演習の目指すところ及び、そこで論じられる内容の細目を盛つたものであります。(註)つまり、講師も学生も、自分の講義の全体の教科課程における意味と地位というものを知つていなければ無駄が多いこととなります。教え又は学ぶ内容については、講師によつて見解の相異はあるにしても、どういふ事柄について学ぶかという点については、講師の間に一致するはずであります。もちろん、先程も申しましたように、学説について、すべての

先生が一致するように教えてくれというものではありませんし、その点については、意見の相違がありうるのは当然だということ、再び強調しておかなければなりません。

要するに、私がここで特に強調したいことは、シラバスというような講義内容のかなり詳細な道標をつくることによつて、学校がそのコースをおいたについては、どういふことを先生に要求しているか、また学生に対してはどういふことを要求しているかを明瞭にさせる必要があるということです。

この点、日本の大学はまだまだ親切でないと思ひます。学生も自分の習うべき学問の範囲を知らないで教わつてゐる場合があるかも知れません。特に職業教育を目的として、教員を養成するという使命をもつた施設においては、その大学全体の目的と、その職業教育とがどのようにに關聯しているのか、そのコースは最終の目的にどのようにつながつてゐるのか、ということ、先生にも学生にもよく分るような形で整えることが大變に必要なのではないのでしょうか。このように親切なシラバスを作ることを考えてみたいということ、を痛感致しております。

お茶の水女子大学、臨時幼稚園教育養成所について

さて、英国の場合を見まして、ここのお茶の水女子大学に附設されてゐる養成所を見ますと、先づ第一に目につくことは、そこに臨時という名の附せられてゐることでありま

す。臨時というのはいつまでなんでしょうか。どうもそういう点がはっきりしません。何故臨時ということばをつけておく必要があるのでしょうか。臨時をとることができないとするなら、その理由をはっきりさせる必要があると思ひます。

英国は、人口四千万五百万しかありません。その英国と、八千万の人口を擁してゐる日本とを比較するならば、日本としては、その規模において少なくとも倍の養成機関を必要とするわけがあります。そうとすれば、幼稚園教員養成所の制度を、もっとしっかりした基礎の上において、学校制度として、ちゃんとした位置を与える必要があると思ひます。そして、できるならば、これを三年課程の養成所としたいと思ふ。このことを強調する必要があると感じたのであります。

幼児教育の内容については、何も知らない門外漢の私が、僅か半日でありますけれども、とにかくロンドンの郊外までいって、お前の国ではどうかと質問されたら困つてしまふような無知な状態で、いろいろと尋ねてきたのですから、多くの誤りもあるうか、と存じますが、どうかその熱意を買つていただきたいと思います。その意味でここにお話し申し上げた次第です。

〔註〕

ロンドン大学、フレイベル・エデュケーション・インスティテュートのシラバスは、大きく別けて、大学としての教授要目と、三年課程の養成所としての教授細目との二つの部分から成っている。

大学としての教授要目の中で、まづ一般的注意として、シラバスの意味するところが明記されている。すなわち、各講座で取り扱かう内容は、その学生の種類、講師の興味、経験、希望等によって見方が違うのであって、講師間に完全に一致を見ようとするとは誤まっているし、その詳細な教え方を規定するものではないということが強調されている。しかし、各コースにおいて、どのような一般的題目が含まれねばならないかということについては、一致した見解がみられるはずであり、それがシラバスであることとわつてある。したがって、その題目の中で、それがどういふ順序で教えられ、どういふ風に研究が進められ、どこに強調点がおかれるかということは、個々の講師の良識に委ねられているのである。

大学の教育課程は概略四つの部分に分れている。すなわち、一般教育原理、教育の歴史、心理学、及び健康教育である。ここでの主目的は、学生の心を、教育の基本問題に向けること、また、教育の理論と実際とが、豊かに関聯しあうように、生涯を通じてその問題を考ふる端緒を開いてやることにあるとしてゐる。

上の四つの部門について、それぞれのコースの目指す所、その取扱かう主題目が詳細に述べられ、試験の方法まで指示してある。

三年課程のコースは、上の大学の教授要目に準じて、それと重複しながら、更に詳しく述べてある。ここでは、大別して、教育専門課程と、専門教課（カリキュラムコース）と、特殊課程の三つに分れている。

教育専門課程は、教職のための、教育全般に関することを含む。細別すれば、第一に教育の原理の課程、ここでは、児童の発達及び心理学が主となって、児童心理学の各分野が網羅されている。ただしこれはあくまでも、教育の実際の理解に役立つことを旨としている。第二は教育実習であり、ここでは、児童の觀察にもとづき、児童が探索と創造的活動とによつて、環境から学んでゆくようにするのに必要な技術を身につけることを目的として、その方法が示唆されている。第三は健康教育の扱かう細目、第四は教育理念の歴史で、特にフレイベルが強調されている。第五は体育、第六は宗教教育の細目である。

専門教科の部は、各教科の内容について、当該年令の児童を頭において、その教育に必要な範囲においてとり扱われるべきことが強調されて、前と同様にその細目が挙げられている。ここには、美術及び手技、地理、歴史、数学、音楽、博物学、宗教知識、英語が含まれている。

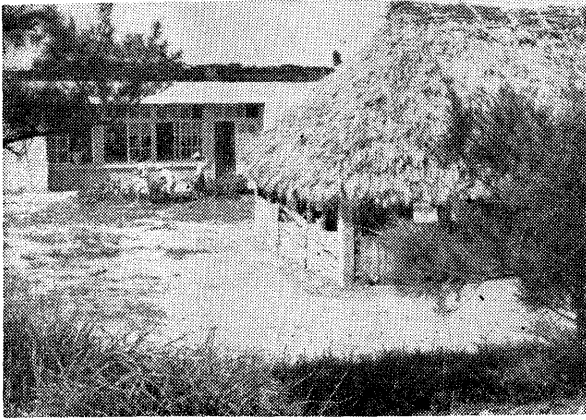
特殊課程は選択課程であり、主として学生の個人的な人間としての発達のために設けられたものであって、必ずしも教職と直接には関係のないものである。これは、一年の後期から始められて、三ヶ年を通して行なわれる。そこで用意されているコースは、美術（絵画及び彫刻）、英語、地理、歴史、数学、博物学、陶器及び図案、宗教知識及び織物であつて、それぞれその細目が挙げられている。

（お茶の水女子大学学長）

沖繩の幼児教育

—〈1〉—

村山貞雄



(琉球の校舎・併存する新旧両校舎)

一 まえがき

沖繩の教育について筆者は、「六論衍義」をあらわした程順則が琉球の人であることや、久米村に明倫堂があったことぐらいしか知らなかった。

ところが、このたび沖繩に四十日あまり滞在することができたので、沖繩の教育について、少し知ることができた。筆者は、最初の二週間ほどは沖繩の教育史についての書物を読み、それ以後那覇市を中心として、教育者、教育委員会、政府などのいろいろな人において、沖繩の教育事情を知りえた。沖繩の教育史の本格的な研究は、大体漢文の書物を読むことによっておこなわれる。沖繩の教育の現状は、沖繩のもつ特殊事情を中心に、対日本関係、対アメリカ関係などをしら

べてゆくところに、微妙な教育思潮をつかみえよう。

つぎに、これらのささやかな智識から、沖繩の幼児教育について述べることにしよう。

二 沖繩の幼児教育の基底

沖繩の幼児教育をみるために、まず沖繩の教育全般のすがたをながめてみよう。

沖繩の教育は明治十二年を境として二つに分けることができる。すなわち、明治五年にわが国で廃藩置県がおこなわれたのにしたがって、琉球県がおかれ、明治十二年に沖繩県と改称されたが、これより近代教育制度時代になるので、この時期をもって、大きく二大別できる。

廃藩置県以前 廃藩置県以前は、東北に日本、西に支那、南に西南の諸国をひかえた小島をもって、いかに実質的な独立をたもってゆくかということと、この地の利をいかに利用するかということに全力がそそがれた。

その結果、支那、日本および南方の文化が移入され、教育面に種々の影響をあたえた。特に沖繩本島においては日本の文化の影響が大きかった。

たとえば、料理を一つ眺めても、沖縄の料理は豚肉を主材料とした支那風の料理がほとんどであるが、これにデリケートなわびやさびなど色彩その他のいろいろな感覚をいれてくればあい、ほとんど日本のなものを利用している。しかも、これらを沖縄料理として独特なものにしようとするところに沖縄人の自主的な気持ちがかがわれる。教育も大体この調でおこなわれていたと思えばまちがいない。

社会制度は、王族や士族と平民の別が次第に明瞭になったが、最下位にある平民の教育はきわめて低く、幼児教育にはみるべきものがない。

日本においては、近世中期以後、庶民の下位にあった商人の実力がましてき、そこに、庶民教育や幼児教育で注目すべきものがあらわれてきたのであるが、沖縄では薩摩藩の圧迫や政府の重税のために庶民の生活は非常に苦しく家庭教育は発達しなかった。ただ政治の方法が農民にきびしく商人にゆるやかであったために、那覇の商人達が次第に力を得るようになり、そこでは反省された幼児の家庭教育がおこなわれるようになった。

教育内容は、わが国と非常に似ている。す

なわち、平仮名による人名、野菜名、教条、六論衍義などの素読、算術（四則）、習字（和漢）和文の綴方、小学、三字経、四書・五経、古文の素読などがおこなわれた。思想的には、支那の孝を中心とした教えが強く影響しており、幼児期から孝についてのしつけがおこなわれたといわれている。沖縄の歌は相聞（恋）の調べと教訓歌で大部分が占められるが、教訓歌には、孝のたいせつなことをうたったものが多い。その例を示すと、つぎのようなものがあるが、この歌は沖縄の子どもなら誰でも知っているものである。

ほうせんか の 花 は 爪先
 テインサグ ヌ ハナ ヤ チミジャチ
 に 染めて 親 の 教えたこと は
 ニソミテ ウヤ ヌ ユシグト ヤ
 肝 ニ 染めなさい
 チム ニ 染めなさい
 天 の 群星 は かぞえてみれば
 テイン ヌ ムリフシ ヤ ユミハ
 かぞえられぬことはない 親 の 教訓 は
 ユマリユイ ウヤ ヌ ユシグト ヌ
 かぞえることができるか
 ユミヤナユミ
 夜 航海する 船
 ヌル ハラス フニ ヤ は 北極星
 目当て 私を うんだ ヤ は 我
 ミアテイ ワン ナチャル ウヤ ヤ ワンド
 目当て

家庭教育は、非常に封建的であり、幼児期から男児は女兒にくらべてすこぶる丁重に扱われた。すなわち男尊女卑の風が強かった。これは家をつく風俗からきている。（尤もふるい昔は母系制度のこともあった）しかし、この習慣は終戦後緩和され、筆者があらた沖縄の人人の主張によると、内地よりもいまは平等だろうということである。しかし、筆者のみたところでは男尊女卑は内地よりもはげしい。

ちなみに、沖縄では旧民法によっている。廢藩置県以後 廢藩置県は、実質的な独立国としてとどまろうとする王族や政府の反対と抵抗のうちにおこなわれたが、国民一般はむしろ政治の刷新をよるこんでおり、それ以後の知事による行政も大体円滑におこなわれ、教育は他府県に準じて発達した。

沖縄の最高学府は、県立の男女師範学校であり、ここを卒業した人人が、現在沖縄で教育界は勿論あらゆる方面で大いに活躍している。またそれ以外の教育をもとめる人人は、内地とともに台湾に行く者が多かった。現在台湾から引きあげてきて上層部で活躍している人が多く、また台湾にとどまっている人も

多い。台湾に多くの人人が行った理由の一つは、台湾において内地人として優遇されたことによる。このようなことから、日本人としての自覚がたかまったのであるが、特に強く反省されたのは、むしろ大東亜戦争から終戦後の現在にかけてである。

幼稚園は、那覇市やその他の都市に少し設立されていた。たとえば宮古島の例をとると、全島に約三十六の小学校があったが、幼稚園のあったのは、平町に一つだけである。

この幼稚園は、小学校に併設されたものであるが、補助がです私立幼稚園とおなじように経営されており、月謝をもってまかなわれていた。園長は、本校の小学校長がかねるのでなく、小学校長を退職したような人がなっていた。志願者は相当多く、四、五十名（本校の一年生が約二百名）ぐらいたった。

明治以後の沖縄の学校教育は、画一的な日本人としての教育がおこなれており、他府県とことなることはないが、方言にたいして標準語の普及が努力された。方言は、わたしたちには、きいていてもまったくわからないが、その多くは日本語が強くなまったものであり、「オ段」が「ウ段」に変わるなどの発音の

変化がみられる。この方言の問題が、幼稚園の存在価値をたかめるのであるが、これは後に述べよう。

終戦後　終戦後は、内地がアメリカ合衆国の教育制度を採用したのと同じいきさつで、沖縄もアメリカ合衆国の制度をとり入れ、学校教育は内地と同じようになっていく。

教育行政は米軍のもとにあり（現在民政府といっている）、さらに琉球政府（主席は沖縄の人を任命）に、文教局があって、教育行政をおこなっている。学校組織は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、特殊学校がある。大学は首里の景勝の地に琉球大学がある。また、特殊学校は盲聾学校等三校ある。なお昭和二十七年まで、小学校は初等学校、中学校は中等学校と呼ばれていた。そのためもあるのか、現在、人人は小学校を小学校、中学校を中校と略して呼ぶことが多く、また中学校をジュニア、高等学校をシニヤーと呼ぶことが多い。幼稚園の呼称は変わったことはない。

つぎに戦後の沖縄の教育のうち、幼稚園教育を考えるために参考となることを二、三述

べよう。

沖縄の教育制度　教育制度は、琉球政府に文教局があり、教育委員会制度を採用している。教育委員会は、中央教育委員会、連合教育委員会、高等学校連合教育委員会、区教育委員会があるが、幼稚園は小学校や中学校とともに、区教育委員会の管理下にある。この区教育委員会は六十四ある。（ただし地区は十二で、十二人の教育長が六十四の教育区を兼任しており、地区内各教育委員をもって連合教育委員会が構成されている）

たとえば那覇市の教育委員会をみると、五人で構成されており、（中央教育委員会は九名で構成されている）一人は市長がなり、また少なくとも一人は婦人でなければならぬ。これらの教育委員会は決定権をもっているが、執行は市長（その教育区市町村長）の責任においておこなわれる。したがって那覇市の小学校附設の幼稚園は、当然本校と同様に那覇市教育委員会の管理下にあるわけである。しかし、那覇市には、幼稚園関係の指導主事は一人もいない。このようなことが幼稚園軽視ととられ、後に述べるように幼稚園の先生が問題にするのである。

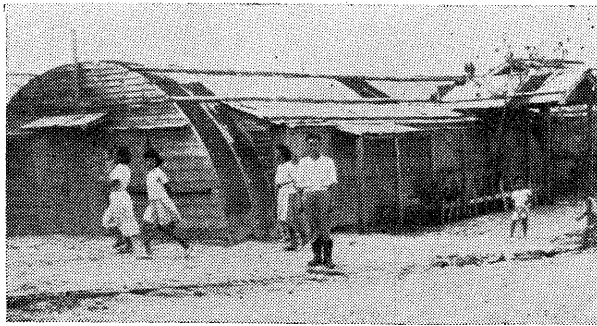
なお、教育長は中央教育委員会が選任することになっている。

教育財政 終戦後まったくの灰燼状態から立ち上がった沖縄の教育財政が困難をきわめたことはもとよりである。しかし、筆者のみるところでは振興は案外はやかたといえる。約十年で、露天教室からカマボコ校舎↓かやぶき獨立小屋教室↓木造校舎↓ブロック建築と、次々に発達しており、一つの学校のなかに、これらの校舎が三種ぐらいならんで使われているのが普通である。(現在、煉瓦造百四十五教室、石造百九十二教室、木造千三百九十七教室、鉄筋ブロック千九百五十二教室ある)

戦後はじめのうちは、幼稚園から大学まで無月謝制を採用し、教科書も無償配給制とした。しかし、二十七年以後、義務教育のみ無月謝制(教科書は個人負担)となり、高校、大学は勿論、幼稚園も月謝をとることになった。現在文教局の予算は琉球政府予算の二十八・四一%を占めている。

なお、沖縄の教育財政で注目すべき問題として教育税がある。教育税とは、他の税と別に、教育のために設立された税である。教育

税は教育を重んじ、人人に教育を自覚させるという意味で興味のあるものであるが、沖縄においては実際にはたくみに運用されていない。すなわち、徴税率が非常に悪く、昭和十九年度分で六六・五八%である。(もっともよい知念地区で八五・九七%、もっとも悪い前原地区で四〇・九三%である)



(最も古いかまぼこ校舎の一つ・壺屋小学校にて)

徴税率の悪いおもな理由の一つは、自分の子どもが学校にいらっているばあいは、納税の意欲をおこすが、子どもがいなかったり、自分の子どもが現在学校にあがっていないばあいに、納税意欲がおとろえることである。

理由の第二は、実際に徴税にあたる者が、市の吏員で、普通の税と一緒に徴税事務をおこなうことである。すなわち、これらの徴税者は税金を少しでも納めさせようと勧誘するばあいに、税金の滞納が直接に自分の月給にひびいてくる普通の税のほうをはやく納めさせるようにし、教育税はあとまわしにする傾向がある。このことは多くの先生がたや教育委員からきいたところであるが、教育税の徴集率が特に低いことは、ここに原因があるのかもしれない。このように教育税の収納が低いことは、後に述べるように月謝をもってまかなう幼稚園には直接ひびいてこないが、間接には幼稚園教育を圧迫している。

すなわち、幼稚園の支出を保育料だけできなうことは困難である。たとえば那覇区教育委員会の昭和三十年(千九百五十五年)度予算をみると、次表のようになっており、幼稚園収入は日本円で二百九十六万四千円がみ

	歳入内訳	%
1	政府補助金	80.94
2	市補助金	2.84
3	教育税	12.50
4	幼稚園収入	1.90
5	雑収入	0.60
6	過年度収入	1.74
7	その他	0.00

こまれているが、歳出をみると、四百七十六万二千円となっており、全体の三・〇六%を占めている。これは他の区も同様で、幼稚園のあるところは、こも保育料以外から補っている。この金額は、ごくわずかなところもあるが、小祿区のように二十八万円の収入にたいて、八十三万を支出するところもある。

沖繩の対日感情 現在、沖繩は潜在的に日本領土であるが、統治権はアメリカ合衆国にある。しかし、一日でも早く日本に復帰したいというのが、島民の心からの願いである。

沖繩の人人の対日感情を知るために終戦以前のことに少しふれてみると、民族的には、沖繩の人々がどのようにしてこの地に住みついたかは——、南方の人が日本にわたる途中

に住みついたという説もあれば、日本からやって来たという説もあり——、種々異説がある。しかし、文化は、言葉をはじめとして、日本による影響がきわめて大きい。もっとも、沖繩列島のなかでも、久米島のように、支那の影響が大きく、これをほこりとしてきたところもある。

歴史的には隣天をもって有史時代のはじまりとし、それ以前と分けているが、この隣天を源為朝の子ともする説もあって、日本との親近感が深い。支那にたいして、陶磁器その他のものを得るために、冊封していたが、これはそのようにすることによって利益があるから、自発的にしていたのである。また支那へ留学生がよく行っている。日本とは、慶長の役以後、内地往來がしげくなり、和風の影響がいちじるしくなった。島津藩は、支那の産物を得たために琉球を独立国として扱い、琉球はまたこれを利用して、支那、南方、日本と交通していた。この間に、支那、日本、南方の文化を吸収したが、特に日本の文化がいちじるしくしみこんだ。しかし、独立国としての種々の特有な文化も発達し、現在におよんでいる。

廃藩置県後は沖繩人による知事はでなかったが、沖繩の人人は日本の一府県として、他府県人と同様な自覚をもっていた。

以上が大体戦前の対日関係のあらすじであるが、終戦後は、ごく一時ジャポネイズということが生じるなど、日本人にたいする反感がおこったこともある。しかし、これはごくわずかな期間であって、米軍のその後の行動により、アメリカ人にたいする反感が漸次つゆり、日本人としての自覚がきわめて高くなった。現在、日本復帰は沖繩の人人の至烈な願望であるが、筆者は公式にこれを口にする者には、ごく少ししかあわなかつた。幼稚園教育においても、幼稚園の先生は、日本の幼稚園が、どのようにやっているかに注意し、筆者に日本の幼稚園の現状を熱心に質問された。またそれとなく幼児に日本人としての自覚をもたせようとしている由である。日の丸の旗を立てることは現在許されていないが、これが許されたときには、非常によることを立てたということもきかされた。以上対日本関係についてややくわしく述べたが、沖繩の幼児教育を考えると、この対日本関係はひろい意味で基礎をなすものとしてなお

ざりにできないものである。対アメリカ関係については、これを割愛しよう。

沖繩の幼児 沖繩の幼児は、沖繩の民族の複雑性をおもわせ、風貌もまちまちであるが、一般に目が大きく、耳も大きく、可愛い顔をしている。戸外でも帽子をかぶる幼児はなく、遊びは日本の子どもと大体同じである。

帽子をかぶらないのは、衛生に無関心のためというよりも帽子をかぶると頭がむせるためである。ゆえに、いい家庭の子どもも帽子をかぶらないがこれは南方共通の現象である。

また日本の幼児とちがって、遊びにおもちゃを使うことが少ない。那覇市でもおもちゃ屋は非常に少なく、筆者はしばしばおもちゃ屋の前を通ったが、あまり客が入っていないかった。いなかでは、多くの子どもがはだして遊んでいる。暑いために、比較的夜おそくまで起きている。

絵は原色が多く、一般に巧みである。絵の感じは非常に明るい。手工はそれほどでもない。

一般に出生率はきわめて高い。混血児も若干みたが、内地ほどにめだたず、深刻な問題にはなっていない。混血児のかずは、六歳児百三名、七歳児百二十名、八歳児百二名、九

歳児四十八名、十歳児十一名、十一歳児二名であり、七歳児を絶頂にして混血児の幼児のかずは次第に少なくなりつつある。

幼児の知能についてはよくわからないが、那覇市内の幼稚園児に、筆者の団体知能検査を二回にわたってこころみたところ、受検態度は東京都内の幼稚園と同様で非常に検査しやすく、知能値の平均もやや高かった。

沖繩の教員 多くの教員が戦争によって戦死したし、戦後のインフレによって教職から離脱した人も多かったため、教員がたならなくなり、教員訓練学校と、文教学校(八・四制の上)に一年履修)で、教員の短期養成がおこなわれた。現在はここを出た教員の数が全体の三分の一以上を占めている。このほか、旧師範学校出身者があり、これらの人人が責任的な地位を占めており、現在は琉球大学の出身者が教職につきつつある。

現在小中高の教諭二千三百三十七名のうち一級普通免許状をもった者は、わずかに九名にすぎず、教員の資質の向上は三スローガンの一つであるが、文教学校や教員訓練学校出身の短期養成教員の向上が大きな問題になっている。幼稚園の教諭の大部分はここを出た

人である。

なお、教員の組織として教職員会があるが、これは組合ではない。教員の学働組合は現在でもアメリカが許さないもので、やむをえず教職員会を組織しているのである。しかしこの会の共済的な方面の活躍は大きく、筆者はむしろやりすぎる面もあると思つたくらいである。教職員会における幼稚園教諭の待遇は他の教員と全然変わらない。

教員は、前曆が教職以外の者も多い。一般には商売をしてもよくなく、軍作業をしてもよくないからというので、次第に教員になりたく思うものが多くなつてきつつある。すなわち、現在の沖繩では、教員は比較的にめぐまれた職業であるが、教員のなかでは、幼稚園教諭は、一万円程度の月給であつて、給料の点からいっても、法的うらづけの点からいっても、はなはだしくめがまれていない。けだし小学校教諭の最低が九千三百六十円、高等学校教諭の最高が二万二千七百五十円(校長最高三万二千二百五十円)である。

また夫婦で教員をしている者が多い。これは終戦後一家中の者がはたらいた名(こりである。産給は四十日である。(次号につづく)

園舎の改善

古い園舎、狭い場所の函館幼稚園

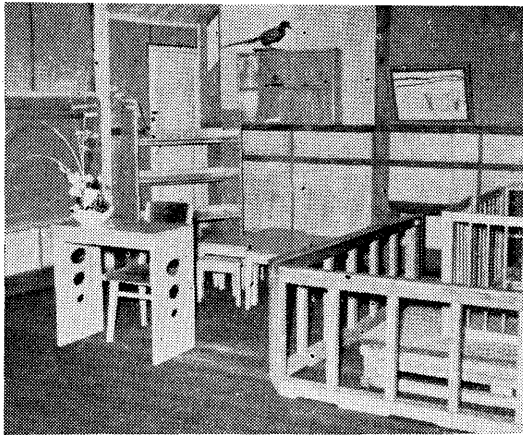
☆☆☆全国的には幼児教育義務制実施を叫んでいる雰囲気の中に北海道の場合は面積と幼児施設の比率、人口密度と幼児施設の比率は低い、わけても公立幼稚園は僅少な現在です。

大半は私立幼稚園によって幼児教育がなされている現状です。であるが故に保育の実際面の指導を受け様とするならば上京といった方法で多少勉強していました。隅々本年度のお茶の水女子大の幼稚園長及川先生御来道の機に恵まれ北海道の幼児教育者の感激や大でありました。

戸
村
キ
エ

其の節私の園にもお越し戴き園内の設備を見て戴く機に恵まれた其の際に古い園舎をせまいところをうまく利用しているとおほめを戴き結果が写真になってあらわれ、之を作文してはどうかとの意を受け、私の園としては狭い場所に沢山の園児といった関係が自然発生的に工夫されて使用していますので使用価値大なのですが他の幼稚園では価値なしの感もあります、各先生方の工夫面の一部を紹介申し上げよりよき施設面の参考点にもなれば幸と存じ申し上げる次第でございます。

☆☆☆



園舎は十八年前の物です。

当時一二〇人を基準として建てられたもので現在二百人以上収容していません。建物の利用に都合のよい点は正面玄関と廊下が広いことです。

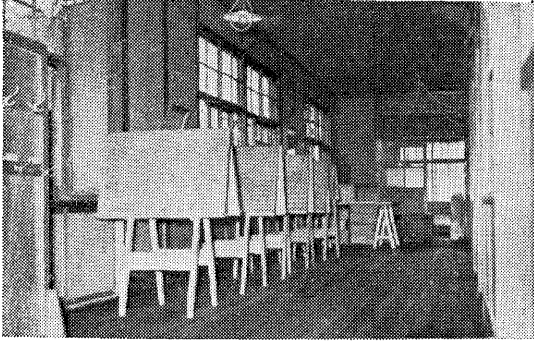
この写真はままごと遊びのサークルを備えてやりました。子供達遊びの場を構成替え出来ることが楽しみらしく、みんなで仲良く遊ば

せたい意図
が実現出来
てうれしい
現家の一つ
だよろこ
んでおりま
す。

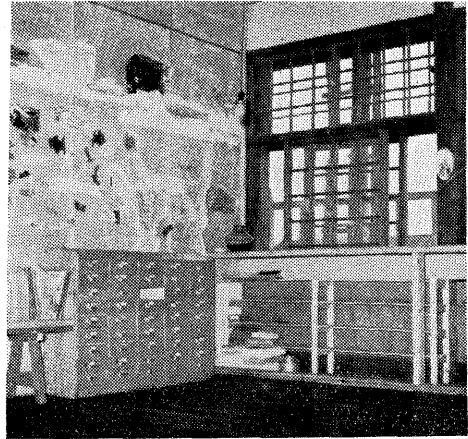
自由遊びの一つの場として塗板を用意してみました。

広い廊下の片隅にあるので子供達の廊下使用には差支えない上殆んど何時も利用して楽しんでいきます。

楽書防止の一役もはたせてうれしい風景です。

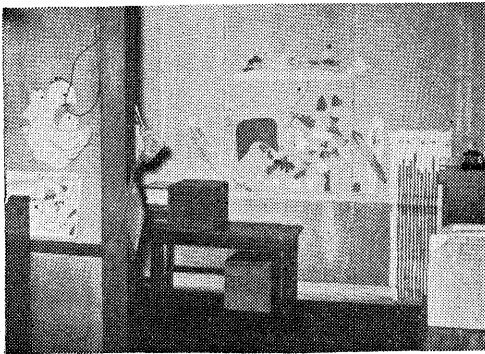


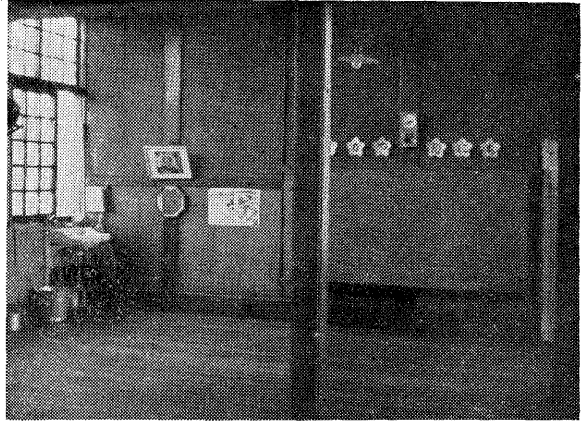
本年度保育室を二階にも設けました。窓際の管理に安全第一にと窓の高さに戸棚をつくりつけてみました。雨具かけ、弁当棚、物の整理にずいぶん利用価値が多いし今まで窓に上るものも改築当時の二階使用の不安は解消といったわけです。



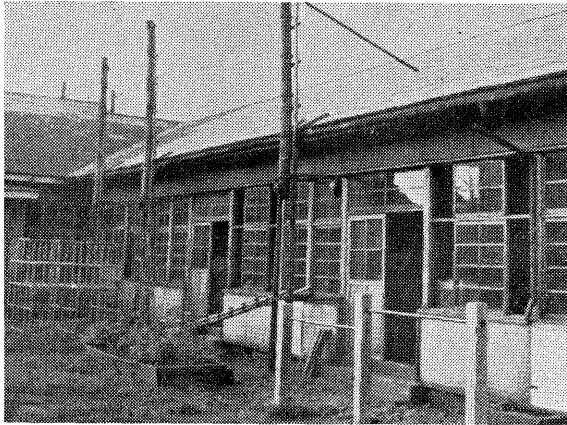
三年保育四坪半の部屋です。園児十二人の部屋です。

子供が自由に部屋を使いこなせる様、物の位置の高さを考えてみました。年長組の共同製作、海底風景をまねて作ってみましたがお舟だけは先生のお手伝いだと言って中々の満足らしいです。





事務室を保育室にしました。
 お部屋の真中の柱が邪魔なので机の配置で工夫しています。片隅利用一寸雑な感じもありますが、日本の感じがでていいではありませんか？。



中庭です。
 空高く突き立っている煙突は年中つけておくのです。
 十月終り頃より五月一杯午年以上もストーヴをたたくのです。
 燃料代だけでも年間十一万一千円で需要費の27%煙になってしまふのです。予算作製上、煙になってしまふ燃料費拮出の苦心は寒国ならではわからない味でしょう。

北海道では公立幼稚園は現在四園位、然もこの二、三年前までは、函館幼稚園一つでしたとか、組織化して幼児教育振興を計りたいとは望んでいてもまだ四園一同に会する機も持てないでいます。随って全道幼児教育者こそぞって斯道前進のため父兄の啓蒙には程遠しです。全国幼児教育者組織の力によって自然増加出来、北海道にも幼児教育がもりもりと進展させて戴きたいと念ずるものでございます。

51頁よりつづく

- 一金 一〇〇円也 中田はる
 - 一金 三、二〇〇円也 横田園子
 - 一金 二〇〇円也 山脇芙美子
 - 一金 一〇〇円也 野口和子
 - 一金 五〇〇円也 齋藤嘉門
 - 一金 五〇〇円也 村田修子
 - 一金 五〇〇円也 堀合文字
 - 一金 五〇〇円也 村井トミ
 - 一金 五〇〇円也 佐々木淑子
 - 一金 五〇〇円也 関治子
 - 一金 五〇〇円也 富樫純子
 - 一金 五〇〇円也 石黒京子
- 以上小計二五〇、一二〇円也

幼稚園におけるリーディング・レディネス

—文字の指導はいかに
考えたらよいか—

黒田成子

従来世の多くの親達は子供が六才になって小学校に入り、その日から文字を習うと考えていた。別に子供の個々の身体的、知的、情緒的、社会的発達などは考慮しなくとも、とにかく六才になれば既に文字を習得する機能は充分そなわっているかの如くに考えられていた。近年に至って欧米の教育者達が子供の精神年齢が六年六ヶ月に到達して始めて文字を習得出来る用意があると見做される様になり、我が国に於ても文部省でこの事を明かにするようになった。

ゲゼル等によれば子供は幼少の頃から既に文字に対して関心があり、十五ヶ月の嬰兒が大人のひざにのって絵本を見る事などは嬰兒期の子供に見られる現象になっている。六才の子供が文字に対してどれだけの用意があるかという事はその子供が生後より六才に至るま

での身心の発達及びあらゆる経験に基礎をおくものである。これを無視していたずらに詰込み教育をするならば読方に対する興味を失うばかりでなく、子供のパーソナリティに好ましくない影響を及ぼす所が大である。今日心ある教師達は小学校で読方を教えるにもこの点に考慮を払い、又幼稚園に於ては文字は教えないが、就学前の経験を豊富にする事に意を用いている。

最近幼稚園関係者の中で科学的な態度をもってテストを施行する事が盛になって来た事は喜ばしい。又言語指導の研究と並行してリーディング・レディネスの問題が取上げられる様になった事は当然な事とはいえ、今後の幼稚園及び小学校教育に非常に資する所があると思ふ。併し、とかくテストのためのテストといった徒らに偏重している考えも時には見られるので、ここに正しい意味のリーディング・レディネスは何かという問題について考えて見たい。

リーディング・レディネスの意義

レディネスは一般に用意性とか準備している状態等と訳されている。ある学習を習得する為にはそれに必要な知識、経験、技術、精神的、身体的機能等の条件がそなわっていないなければならない。この準備されている状態がレディネスである。読方に関したレディネス即ちリーディング・レディネスには身体的、知的発達及びこれをコントロールする力、及びよみ方に対する興味や技能を必要とする。

リーディング・レディネス・テストは子供がどの程度読み方に関して必要な能力をそなえているかどうかを調べる為につくられたも

のであるが、それが果して子供の将来の読方に関する能力をどれくらい予測出来るかという事はかなり問題とされている。

エフ・ロビンソンや、ティール・ホルの研究によるとレディネステストは信頼度が非常に高いが、将来の読書力を予測する点では知能テストの程度を出てないといつて居る。(註二) ビー・キースタによればレディネス・テストも知能テストも共に六才以下の子供には予測の確実度が少いといつている。(註三) これに反してアール・メルヴィルはレディネス・テストの方を支持している。(註三)

アメリカのレディネス・テスト

米国内で一般に支持されている説はレディネス・テストは知能テストと殆ど同じものを測るが、レディネス・テストの方が子供の読方に関する特性や能力を一層明瞭に示すという事である。(註四) この他幼稚園から小学校に進学するに当ってレディネス・テストや種々のテストを施し乍ら子供が教師の指示に従う事が出来るか、又注意力がどれくらい持続するかどうか等を見るのである。そればかりでなく、教師はレディネス・テストを子供に施す事により、しばしば情緒的、社会的問題に対する洞察の端緒を得る場合がある。

近來アメリカに於て学校の教師達が子供達の特徴を診断し、その必要性を探し出す事が非常に上手になって来たと言われているが、一般に次の様な方法が取られている。先ず何よりも児童発達を基盤としたたゆまない研究が必要である。その上に子供の観察、殊に逸話的材料の蒐集、学校側の記録(累積したもの)の研究、それに諸

種のテストの施行、評価等による。一般にレディネス、テスト程度のもものは教師がこれを行い、知能テストになると専門家に依頼するのが普通とされている。

レディネス・テストの使用法と注意

レディネス・テストのつかい方も種々あるが、学期のはじめとか終りに施して比較したり、グループを分ける時や進学に当つての参考にしたりの事であるが最も大切な事は云う迄もなく子供自身の欠陥を見出し、これを補う事に意を用いる事である。

テストを行った教師がそれで万事が終つたと思つたり、数字的な結果を父兄に知らせたりする事は甚だ遺憾である。ひどい例では、東京の或る幼稚園でテストを行い、園児の知能指数を母の席上で発表した為母親達は戦々兢兢として非常に不安な思いを経験させられたさうである。テストの結果は専ら教育指導の参考の為に使用して、必要のある場合は個人面接をして総合的な報告程度にとどめた。懇談をするに当つては知能指数を知らせる様な事は慎しみ、その子供の能力が組の中で大体どの辺の所に居る位の事を話し合ひ、むしろ教師も父兄も共に子供の全体的な発達に考えを及ぼす様にしたいものである。幼稚園で行つたテストの記録を小学校に提出出来れば累積記録の一部となり貴重な研究資料となる。

レディネス・テストも他のテストと同じように絶えず批判的に最大の注意をもって利用したい。テストの結果を絶対視するあまり、未だ他の子供達と同じレベルに到達していない子供達に不当な

批判を加える事にならないとも限らない点を注意しなければなら
ない。

レディネス・プログラムに就て

レディネス・プログラムなどと大げさな事を云うと或る幼稚園で
はレディネス・テストを施行する事に重点をおいたり、ワーク・プ
ック式のをさせたりする事を考えるかもしれないが、正しい意
味のレディネス・プログラムというのはこうした偏った保育ではな
い。読方を習うためには知的、言語的能力が発達していなければな
らないばかりではなく、視覚、聴覚、運動神経等身体的にも発達し
ている事が必要である。であるから、レディネス・プログラムとい
うのは幼稚園のカリキュラム全般に織込まれ、子供達が生きた経験
として生活出来るものでなければならぬ。

視覚の判別力を助ける

大部分の五才児の視力は小さい文字に長く焦点を合わせる事が出
来ない。ベッツの調べた所によると健康な六才児の八十パーセント
は遠視であつて一寸長く文字を見ていると疲れてしまう。又エル・
デーヴィスの研究によると四十一人の小学校一年生に対して入学当
初に眼のテストを行った所、本を読む程度の距離で事物に焦点を合
わす事の出来る者は僅か全体の十五パーセントに過ぎなかったのに
比べ、四十五インチ程に距離を離れた所、六十三パーセントも焦点を
合わせる事が出来た。(註五)

幼稚園ではこの様に五、六才の子供達に近い距離でものを見る事

に慣れさせなければならぬわけである。視覚を伸ばす為の遊びと
してはいろいろあるが、類似点の多い動物や花の絵を比較させて、
類似点、相違点を述べさせる事も出来る。大きさの異つた、円形、
四角形、三角形等を書いてこれを切つて使う事等は物の大小に対し
て注意力を養う事となる。絵を描く事、ものを切る事、フィンガー・
ペインティングや、パズルのはめ込みをする事等も、視覚を伸ばす
のに非常によい。

四才を過ぎる頃になると子供は自分のおかれた環境に対して興味
を持つようになる。次第にものの空間的な関係を知るようになる
と、上、下、前、後、等という言葉に気付くようになる。子供達が
絵について説明する時「どこに……」という事をハッキリ云うよう
にさせる。こういう時期に物を隠しておいて在り場所をあてるゲー
ム等取り上げる。自由画などもさかんに奨めたい。こういうものを
見て空間的概念が養われつつあるかどうかという事を見る事が出来
るのである。

聴覚の判別力を養う

ピアノをつかって大、小、強、弱、の音を識別させる。又鐘やチ
ヤム、たいこ、カステネット、笛、等の音色の違う事を知らせ
る。「三匹の熊」「浦島太郎」等の劇あそびをしながら声の調子の
相違という事に気付く。歌をうたう時の声に注意を払ひ度い。そし
てよく聞かれる様なレコード歌手等の不自然な歌い方ではなく、い
つともごく自然な無理のないやさしい声で歌をたのしむようにした

「かごめ」や「ずいずいずっころばし」や土地の民謡をロザさんで遊ぶ事をもつとするとよい。時には短い歌を大きい文字で黒板に書く。こういう事をしながら子供達は音声と文字と何らかの關係がある事を知るようになる。よく子供は「高田先生だから、たかたかたかいよ。」等と意味もない事を云ってふざけるが、彼らは音声と文字に興味を示してこれらをもてあそんでいるのである。お弁当のあともしりとり遊びや電信遊びなどは保母の心がけ一つで立派なリーディング・レディネスのプログラムになっている。

言語発達を助けて

次に言語発達、殊に語彙を豊富にするためのプログラムを考えたい。子供が幼稚園に入園した時は言語的素養もごく限定されているが、在園中に話し言葉を増進させ、思っている事を表現出来る能力を養われるような経験活動を与えなければならぬ。

幼稚園における「お話」は、こういう意味で非常に大切なものがあり、あらためてここに紹介する必要もないが、子供達は話しを聞くばかりでなく、自分達の言葉で話しをしないおすと、創り出すとかいう事もさせたい。こうして思っている事を継続的につなぐ事が出来る様になり、やがては簡単な話しの原因、結果という事も推察出来るようになる。発表力もおのずから養われる。

毎日の話し合い、おままごとやゲームや劇遊び等をしなから、或は共同の手紙を書くとか、紙芝居や人形芝居を創作したりそれに出

演したりする事によって、発表力、表現力を養う機会は無為にある。

意味のある豊富な語彙を養うために自由遊びや束縛されない環境がどんなに大切であるかという事は多くの学者達の研究をまつ迄もない事である。動物園や消防署、魚屋さんや八百屋さんへの一回の見学がどんなに生きた概念と豊富な語彙を子供達に与える事か、現場に働く者達はいつもそれを経験し乍ら、その効果の大きいのに眼をみはる思いである。であるからフィンガ・ベインティング一つ造るにしても高価な商品を手紙で注文するのではなく、面倒がらずに子供達と共に近所の店へ買物に出かけ、メリケン粉を煮て粉石鹼をまぜてボスタ・カラーで着色する事までさせたいのである。

幼稚園の中で先生は随所に文字をつかう事が出来る。例えば黒板に当番の名前をかく。天気グラフをつくる。壁の絵に題目を大きいひらがなで書く。部屋の隅によくとりかえらるる絵本のライブラリーを造る。これらも皆子供達と共にしたい事である。

彼らにこうしたナマの経験を与える他に、スライド、フィルム、展示、ラジオ、等も活用したい。

結 び

以上幼稚園に於けるレディネスの極く一般的な問題を取り上げ、これを助長するプログラムについて考えて見たが、教師たる者が単にレディネス・テストやレディネスを助けるプログラムに熱中する事が重要ではなく、子供の全人的教育と発達に意を用いる事が究極の目的である事を忘れてはならない。

近頃個人差という事がやかましく云われているが、此の極くユニークな個人というものをよく知る為には先ずその同年齢の子供達について知って置かねばならない。云いかえればそこに規準（ベンチマーク）というもの意義が出て来るわけである。ゲゼルはくりかえしくりかえしこのノルムについての考え方を戒めている。レディネス、テストを施して一人の子供を検査しても、それは検査や他の子供との比較とというような事で仕事が終わって意味がない。彼はほんとうの仕事というのはその子供丈の持つ獨特の規準というものを採り出して指導する事であると云っている。(註六)

であるから就学前の子供達に教師は読方のレディネスを与えようとして子供の過去の発達を理解し、又次の段階に至る為のレディネスが生じるように環境設定を考えてやる必要がある。そしてたえず子供の情緒的、知的、身体的発達に眼をそそいで置かねばならぬ。

こう考えて来ると読方のレディネスという事は幼稚園及び小学校低学年の問題として考ふるわけにはいかず、リーディング・レディネスの問題は高学年迄引続くものであるという事に思ひ至る。我々のゴールは子供が成熟発達して行くと共にそれにともなう前に押し進めて行かなければならない。他の教科もそうである様に「読方」の進歩は子供の一部の知的発達ではなく、あくまでも彼の全人的発達に関係している事を銘記し度いと思ふ。

註一 Hirdreth, G. Readiness for School Beginners World

Book Co. N. Y. 1950

註二 Keister, B. Elementary School Journal, 41, 1941

註三 Melville, A. Measurement Education N. Y. 1953

註四 Hirdreth, G. Readiness for Reading, The Forty

Yearbook, Univ. of Chicago Press, 1949

註五 Davis, L. Supplementary Education Monographs No. 49

Univ. of Chicago Press, 1939

註六 Kavin, E. Observations, Tests, and Measurements,

The Forty Sixth Yearbook, Univ. of

Chicago Press, 1947

(東洋英和附属幼稚園)

愛珠幼稚園の

史料倉庫を訪ふ

新庄よしこ

寒暖程よき折柄の氣候を幸いに関西の方に出かけることになった。米原の菩提寺には琵琶湖をはるかに見渡して山の中腹に両親の墓がある。その法要のため一族が集ろうという。この殊勝な思いたちは、聞えもよいし、又一つには長い間いろいろの事情で相逢う機会もなかったお互いが、親しく語りあえるという喜びで思いの外多く集ったが実は云はず語らずの一つのねらいがあった。この辺一帯の山々には松の木が多い。この根もとせずに土を持ち上げて、秋の香を漂はせている松茸をさぐり当てようという。先年はそのとりたてを、かき集めた落葉の火で賞味したというのは、残念

ながら今回は話だけで終ってしまったが。かくて滞りなく行事も終えて住職一家の心からのもてなしに感謝しつつ一同と別れて、東に来るべきを更に西へと向い、その夜は京都に泊った。私は思う通りの段取りに段々近くなってきたなと一人で喜びながら。

実はこの企てに誘われた時、私は行ってみようかと決めたのは、米原迄行くなら一足のばして大阪の愛珠幼稚園をお訪ねして、かねてお願いしてあることにつき、手紙だけでは礼を欠くような気もしたので御挨拶をしたい、勝手ながら史料も拝見したいという願いが強かったからである。一緒に来た娘夫妻は久々に京都の名所行脚、殊に新装の金閣寺を見せて親孝行でもしようと思つらしく、時間やら乗物やらと計画している。それにも行ってみたい、然し私は私で、愛珠に行こうと決めてから前もって一文お願いし、日時が決っているので、これは守らねばならぬ。さてどうしようか、なんぼなんでも、私は勝手にするからどうぞおかまいなくとも云えない。格屋の一室

で膳碗、ふすま、さては敷物に迄それぞれ形で柵が描かれ染めぬかれていたのを眺め眺め、思い切つて私の考えを話してみた。あなた達の気持はほんとうにありがたい、金閣寺を見たいのは山々であるが、こういうわけだから此度の見物は二人だけで行って私の好きなようにさせて頂戴という次第で、別れ別れでいそいそと大阪に向つた。

さて、いよいよ愛珠の玄関にはいった。いろいろのものがめにつく、今どきこんな幼稚園があるのかしらと、參觀心理とでもいうのか、心の中だけではとてもきよろきよろしてしまった。やがて、園長中村道子先生は幼児の一群の中から走ってこられようこそようこそとまず堅い握手で迎えて下さった。初対面という順序はふむ余地もない。嬉しかった。何はともあれ、定められたことのように私を史料の倉庫にと案内して下さい。お茶の水幼稚園にあった原画は火災にあったので今はこちらに保存されているのが何よりの宝である。まずめにつく幼稚園二十遊嬉の図、衣食住の図十二枚、

色彩が八十年をもの語りながらそのまゝ額
になっている。幼稚園関係者にとっては雪
舟、探幽にもまさる絵画であらうかなどと
自分だけで思ってみる。この外関係古書数
十冊、ここに一々を挙げられないが、明治
唱歌幼稚の曲という小冊子は子どもの遊戯
を錦絵風に描き一方に歌詞が書いてある。

当時ありのままの書名であるが今見ると何
と、時代内容をあらわすよい書名ではない
か、ここで私は、幼稚園で用いてきた楽器
の変遷を先生から教えられた。現代一般に
使っているピアノになる迄はどんな経路を
辿って来たか、最初が和琴（わごん）とい
い、普通の琴の小さい形、絃は六本、但し
この音は弱く、幼児が喋々、風車などを歌
うその合間にチャランチャランと合の手を
入れる程度、むしろ先生のうつ手拍子の方
が音響としては強くもあり、心と心のつな
がりも親しみがこもり、うたい易かったら
しい。次がざみせん、と中村先生は云われ
た、三味線のごく小型のもの、ひくのはバ
イオリンの弓と同じく、ばちではない。次
手に風琴がこれに代っている、この辺から

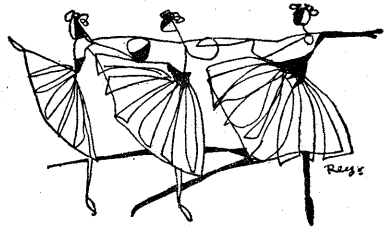
大分洋風がはいつて来ているのは時代の影
響か、ふちのかざりなどいかにも外国め
いている、こんな工合でしようねと音楽に
堪能な先生はちょっと弾いて下さった。つ
づいてバイオリン、その次にオルガン、
ピアノとなってきたわけである。

これらを一々懇切に説明して下さる先生
はこの日は丁度幼稚園としての催しがある
との事で、格別お忙しいらしい。電話はか
かってくる。父兄は次々とあいに来る。こ
の御用の合間を見ては、飛び歩くようにし
て説明して下さる。園舎のこと、庭のつく
ばいの流れ、愛珠という名称のいわれ、書
いても書いても書き切れない。お会いして
いてしみじみ思った事は、これらの史料に
対しみちんも私心を持たれず、あたかも全
日本の幼稚園のものであるような非常な寛
大なところをお示し下さった事はいかにも
忘れられない。この品々が、今は大切に倉
庫に秘蔵されてはいるが、当初より時移
り、人変る毎に、必ずしもかく迄の愛情と
熱とを持って守り続けられてきたとは言い
切れない。親しくお会いして見て、この先

生なればこそあの史料とこの先生との深い
つながりがかくあらしめたのはお人柄の然
らしむるところと感銘を深くした。そし
て、そつと思いを東に移して思ったこと、
お茶の水幼稚園の明治九年からの歩みが、
この愛珠幼稚園と同じように今日、人を得
た幸いを持っていて、これから将来の幼稚
園史の貴い存在となるであろうというこ
と。又日本の各地方の幼稚園が夫々その沿
革生い立ちを持たれている筈、一見何でも
ないことのようにあって、その一つ一つが
発達史の貴い一枚となるであらうから大事
に保存されたいと祈ったわけである。

始めから愛珠へ行く決めて出かけたわ
けではなく、この機を幸いに行をのぼして
みたいと考えたので、かくもかねての思い
を果して帰途についたことはまことにうれ
しい旅であった。

×
×
×
×



何人かの幼児を受持って共に生活している、先生はその一人一人についていろいろとのみ込み、子供の方でもその空気に馴れ、何をするのにも気易く、その雰囲気にあつたように、お互が安心感をもってすごすことが出来る。先生は先生なりに、子供は子供なりに自然と出来るのである。先生がちよっと場をはずしたり、何か用事が出来てほかのことをしているときや、おやすみをした、というときにお子さんが大きな怪我をしたり、何か事故があることが多いことから、こういうことをしみじみと感じる。

《劇 あそび》

おもちゃや

村田修子

こうして一人の先生のもつ組の感じというものが段々出来てくるが、それは大体その先生らしきをもって成長していく（これは考えるところらしいことでもあるが……）

けれどこればかりでなく、四歳・五歳という幼ない子供ではあるが、それぞれのもつ個性の強さとか、集って作り出す気風といおうか気分・傾向は、同じ先生がもつてもその年々の組の構成メンバーによつてもち味が違う。或る年は大変積極的になる傾向だったり、おとなしすぎて物足りない感じであったり等々……

（劇あそびを始めるまで）

この劇あそび「おもちゃやさん」をした組は、私が今までに持った組の中で面白いと思つた二組の中の一つである。一つは何としてもこちらの思つたこと、云つたことすべてに予想以上に反応してきた組、ところがこれは前者とすこし違つて、何をするにもはずかしがる人が多いため「したい」という気持よりも「恥かしい」という気持の方が大変につよく、いざとなるとそのために普段はしないようなことを始めてその場をこわしてしまつたりすることがたびたびであった。それぞれ個性がはっきりした人が多く、自由遊びのときの遊びなども平凡でなく発展的なので、面白くたのもしいのだが、人の前で話をしたり、一人で何かするということなどはいやだ、という人が何人もいた、というわけで、劇あそびをすることを四歳児のときから考えていたが、どうしてもまとめることが出来ないという状態であった。

年長組になって一学期の末に、こんどこそみんなで参加して劇あそびをするた

のしさをあじわおうと計画した。

それには先ず子供に一番身近な普段の生活の中から題材をとれば、余りよそゆきの気分にならずに出来るだろうと思つて、丁度おたまじゃくしを或る家の池からかんに入れて「先生、はいっ、これ」ともってきてくれたことを中心にして皆で話し合つて一つのお話しまとめた。

これから自分のなりたいたいのをきめるとそろまでいったが、いざ始めるとなると「これになるのはいや」というのがつきつきと伝染してとうとう何も出来ないまま夏休みがきてしまった。

第二期がはじまると、運動会がすぎた頃から、極端に恥かしがりであつた二、三人の人も何とかなるまでに成長してきてた。

そこで劇あそびにもつていって見たが、「劇あそび」というと、今まで大きい組の人のするのを見せてもらった経験などからして、人にみせる、ということを考えるためか、「やりたい」といいながらもはづかしがっていた。けれどその空気は前とはちがつた「うれしさ」をも

っていることを感じた。

先ずみなでして、「自分も参加した、自分たちでも出来る、たのしい」ということをあじあうということを第一の目的とし、まとまつたら何かのときに皆に見て頂く予定をして大部分の用意をこちらでした。

(題材としたもの)

クリスマスやお正月をひかえて、普段の自由表現や模倣あそびなどのときしている「びっくり箱」などからヒントを得て、おもちゃの中から材料をさがした。考えられるおもちゃの中で、音に合わせ動くもの、動作や表現のしやすいものとして、凧・自動車・お人形・汽車・羽根・こまを選んだ。

(話しのすじ)

おもちゃの店で、夜中におもちゃたちが集つてびっくり箱をしながらたのしく遊んでいる。遊んでいるうちに夜があけ、お店のおじさんとおばさんが出てくる。おもちゃはいそいそでもとの棚にかえる。おじさんとおばさんは、おもちゃを順々にうごかしてみる。そしてこわれた

おもちゃは奥にしまつてくる。よいおも

ちゃはお店の棚にならべる。おわりにこわれたおもちゃはなつて出てきてお店のおもちゃとみんなていっしょに遊ぶ。

話しの構成は、「おもちゃが出てきて動き、半分はよく動き半分はこわれる」ということのくりかえしとした。

(配役など)

おじさんとおばさんになる人については皆で「誰がしたらよいか」というようにしてきめてみた。ところが面白いことに、おじさんになった人はそういう役になつてもまありードしていける人であつたが、おばさんになった人は「おばさん」という名称からおじさんがそう感じたのか、普段余り口をきかないおとなしすぎるくらいの人にきまつた。

あとのおもちゃは、それぞれ自分たちがなりたいものになつた。このおもちゃたちは、半数はよいおもちゃになるわけなので、子供たちの発案からそれはそのおもちゃのグループの中でお互に話し合つて交代にするようにした。

この交代してすることがとても面白か

「たらしく」「今日はぼく」というように自分でよく覚えていて、それぞれが駄目になり方を考えていた。この交代することや考えることが変化をつけたのか、することをとても喜んでいた。

おじさんとおばさんの会話は、二人が交互に新しいおもちゃの名前を出していくように考えていたが、それになる人から考えて、おじさんはいつも「何をしてみよう」とし、おばさんはそれをうけて「……しましょう」というようにかえて、それぞれが同じ内容をもった言葉を取りかえずことにした。

(うつき……主におもちゃについて)

動きは普段しているものの中から、お人形、汽車などの自由表現をとりあげた。その他も題材を与え、先生の方は大体の動きを予想して適当に拍子、メロディーをつけた、動きやすいフレーズをもつ音楽をもっていて、自由に表現した中からとりあげた。たとえば凧は、二人はあげる人になり、凧になった人はすきなようすをして空にあがっているところをとりあげ、羽根は、四拍子の音楽で、お

じさんとおばさんがつき、そのあいだを羽根は三呼間かかってまわりながら反対側にいき一拍やすむ、というようになつたのをとりあげた。こまは子供が考えたのはただその場をくるくるまわるだけだったので、危険などを考えて、両脚とびとか、左右に動いたりひとまわりする、というようにヒントを与え、そこから更に発展的に考えたものをとりあげた。

動作している途中で半数が駄目になるが、それは同じ曲を高音部でひくことによつて区別し、高い音になったら半数は、それぞれの考えた駄目になり方で動作をやめ、よいものはそのまま動作をつづけた。

ふりかえてみると、言葉をいう人が少数であるが、すじが繰返して言葉も同じよくなっているために、誰でもがすぐにかわつておじさんやおばさんになることが出来た。おもちゃの動作もそれぞれの考えなので、これも誰もがすぐに出来た。そのため交代している場合に、思いがけない人が予想外のことをするとき

があった。

音楽に合わせてすることが大部分なので、「劇あそび」ととり出しているほどのものではないが、みなが気軽にすることが出来たので、「みんなでまとまりのあるものをする」という一つの目的だけは達することが出来たようにおもふ。

(お茶の水大付属幼稚園)

新

刊

日本女子大学教授 愛育研究所食養部長
医学博士 武藤 静子 著

栄養学の基礎から給食まで

A 5 判・208 頁
定価 250 円 円 24

株式会社 フレーベル館

冬の室内あそび

—私の組のこの頃のあそびから—

関 治 子

冬の陽さしを受けて、のどかに充分に遊ぶ子どもたち——これは想像するだけでも楽しいものです。しかし、この頃は、庭一面に霜がおり、肌をさすような北風が吹きすさんで、子どもたちは指をかじかませています。冬のあそびは、寒さと重ね着の為、運動量に不足するだけに大いに活発なあそびをして貰いたいとは思いますが、静的なあそびか、ややもすると滅茶々な室内あそびになりがちです。

風のない暖い日には、先生の意図は勿論のこと、子どもたち自身、思う存分庭に出でかけ廻ったり、日向ぼっこに顔をほころばせますが、庭の状態と、この頃の気候とからみて、室内あそびの場合を考えてみる事に致します。

一室に四十人近くの子どもたちが、意のままに遊んでいます。三才児のように年令の小さい場合は、友だちあそびもグループが小さく、時には一人で好きなことをし、或は友だちや先生のする事に見とれたりしています。その中で数人になったグループ

では、面白い事が始って、声をたてて喜び、はしゃぎ廻っています。一方、五才児は、近く幼稚園を終るといっただけに、あそびは計画的であり、グループも大きくなって連続性を持って来ています。子どもたちはいろいろなあそびを創造しては、一見同じようなままごとあそびの中にも一日一日変化を持っているようです。近頃ではグループが大きくなり、男児のグループと女児のグループが一緒になり、終いには組の大半が一つのあそびに夢中になっているのを見かけます。興にのったあまり、「夢中」は「大騒ぎ」へと移り、子どもたちの一団は大挙して廊下やゆうぎ室へと空間を求めて拡がり、周囲の事など、眼に見えず頭にも入りません。遂には滅茶々な大騒ぎになってしまつて……。私にはこのような経験が随分ありました。自己の不勉強や性質上でしょうか、今の担任の組では、室内あそびは苦手でした。力が強かったり、我儘であったり、社会性がない、協調性がない、自己主張が強いなど、個性の顕著な子ども

が多くてなどというのは、多勢の子どもの中には当然あるべき事で、こういう細だから、騒がしくなりがちで……というのでは、全く力量不足の弁解になってしまいそうです。第一、こんなに一人一人が生命に躍動している姿に対して申し訳ないし、これ程張り合いのある事はないでしょう。これらの危懼はありがたいもので、子どもたちの成長や動きによって救われ、私には一つ一つの尊い新しい体験となつて参りました。

何の意味もないような馬鹿騒ぎのようなあそびに「ああ大変だ。こんな事をして……これは止めさせなくては。」と思つて、あそびの経過もみずに阻止、禁止してしまつたら、その時の結果としては大騒ぎは止むでしょうが、子どもたちの胸の中は、むしろ不満だけが残つて、何かの形で吐け口が向けられると思います。もし、私が興味のある好きな事をしていて、急にたち切られたとしたら、その欲求不満は相当大きなもので、精神的には随分マイナスになると

思います。まして、純真な子どもの心には、それが傷になつてしまふかも知れないと思ひ、危険なことに、他への迷惑には注意して、なるべく禁止しないでみたらと思ひました。

一体、こうしたあそびは、(私はいわゆる自由あそびを指しているのですが)どの程度指導を加えるべきか、子どもの意のままにさせるべきか、その事自体がわからなくなつてしまいました。ともかく放任ではない、しかし、自由ではある筈などと反問しながら、「幼稚園真諦」の頁を繰りました。『……自由あそびの中から色々な事ばかりした内容の生活が始まることもいいことで、出来る丈指導要素の多く加わらない、まして教導が多く加わらない幼児自らの自由感に満ちた時間を以て幼稚園生活の一日を出発させたいものです。』『……人間には自由を求める自然の要素があると同時に、自分の生活に向つてあるまとまりを求める自然もあるものです。』自由にといいのでは、はき違えてしまつてもありません。

しょうが、子どもたちが自由感をもってあそぶ姿、それを保たせなくてはと教えられ、又、自由を求めるのは自然の要求だから阻止は出来ない。更に、あるまとまりを求める自然の要求もある。こういう事を読むにつけても、まだまだ私がそれらをどういう態度で臨んでしまつたか、反省はあるにしても、何か本質的な理論を教えられて、子どもたちの日々の姿を、大きな眼で見守れるような気持ちになりました。

子どもたちの乗つた車が、はめを外し過ぎてしまつたら、子どもたち自身にブレーキをかけて貰いましょう。これが私の小さな決心でした。この頃の年長組の子どもへの私の願ひですし、又約束でした。こういう事は、あそびの中で無意識のうちに子どもにも考えさせている事になるでしょう。自由の中に、責任も持たせている事になるでしょう。子どもたちは、精神年令の進歩と社会生活の経験とから来たものでしょうか、いろいろな友だちに加つて精一ばいにあそんでいるようです。滅茶々々あそびに

なってしまうあそびを転換させているようです。子どもたちと共に、声のポリウムをあげてしまった私、本当に恥しく思います。自己の姿を反省する事が出来るのは、本当に子どもの姿からだと感じ、ありがたく思いました。深い反省を行っている間にも、子どもたちはどんどん進歩して、やがては幼稚園も終ろうとしています。いろいろなあそびをくり返し、生み出し、応用して居りますが、この子どもたちが、この頃好んでしているあそびを書き記してみます。

○お家ごっこ

二軒の家、それにお店も加って、電話の応答、紙幣つくりをします。

○クレヨンずもう（便宜上この名をつけました）

クレヨンや短い鉛筆を机の上に二本立て、拳でとんとん叩いて勝負をつけます。鉛筆やクレヨンは折れる心配もあり、勿

体ないので、紙や石を入れたりして、これに類似したものを作っています。

○トランプ・ゲームあそび

年末からお正月にかけての家庭あそびの影響で、堅めの紙でトランプをつくり、ばばぬきを主にします。くじのようなゲームをつくって、友だちとひき合います。

○紙芝居ごっこ

えをかく事の好きな人の要求に始まり、小型に切揃えた紙を用意し、創作話や物語などを紙芝居のようにかきます。友だち同志、紙芝居ごっこで説明し合います。字に興味があつてかける子どもはかいていますし、かかない子どもも沢山います。却つてよく説明しています。自分のつくったものには所有欲強く、えの不得意な子どもも真似してつくっています。

○おもちゃづくり

特に先生が意とせず、厚手、薄手の紙や糊を用意します。汽車・舟・自動車・

駅・トンネルなど立体的なおもちゃを興をもつてつくっています。

○写真屋ごっこ

写真機をつくって写し、えにかいておいた写真を渡します。

○積木で乗物あそび

床上積木と小さい積木を併用して航空母艦と飛行機・消防自動車・汽車の内部など、小動物を運転手やお客に使用します。

○わとび

藤製のわをいろいろな距離や形に並べて、片脚とび、両脚とびとルールを作つて一列に並んで順々にとびます。

○かくれんぼ

室内では空間が限られていますので、小動物を使ってかくれんぼをしています。

○足ふみ鬼

円陣で手をつなぎ、鬼が足をふみ、ふま

れた人が次に鬼になります。手を離さない方が面白いようです。

○ハンカチおとし

円陣でしゃがみ、鬼が円周を廻って、一人の後にハンカチをおとします。おとされた子どもは気づかなければおまめとなつて中に入っています。気づいたらすぐ、にそのハンカチを持って、又誰かの後におとしに行きます。円周の子どもはふり返つてみないようにし、絶えず気をつけています。

○だるまさんころんだ

鬼が目を閉じて「だるまさんころんだ」という間に、皆はスタートラインから鬼の方へと前進します。鬼が皆の方を向いた時に動いた人は鬼と手をつなぎます。誰かが鬼にさわったら、皆はスタートラインの方めざして戻り、鬼は「ストップ」をかけて何歩かで捉まえ、その人が鬼になります。

○ひっぱりっこ・おしくら

二組に分れ、夫々一人ずつ出て足を固定しひっぱったり、掌で押し合うかします。先に足の動いた方が負けになり、その組は一人人数が少くなります。人数の多い方が勝ちます。

○花束づくり

庭の柄葉や毛糸、紙ひもなど集めては、紙にまいて花束をつくります。

その他、えをかいたり、片隅では踊ったり、幼稚園ごっこや、さくらさくら、はないちもんめなど、何回も何回も連日のようにくり返されるものもあり、又、今挙げた中にも好ましくないものもあるかも知れませんが、なるべく子どもたちの中から出たあそびで、この頃、好んでしているあそびを挙げてみました。又、こうして形になってあらわせないあそびも、自由あそびとして大切なものがあると思います。そんなあそびもよく観察するべきで、又教えられる所が多い事と思つて居ります。

(お茶の水大付属幼稚園)

新 刊 案 内

文 学 博 士 武 政 太 郎 先生監修
玉成高等保育学校長 有 院 扁 良 先生校閲

玉成高等保育学校幼児保育研究会編

フレーベルの恩物の理論とその実際

A5判 330頁
定 価 450円
箱入上製本
下 32円

フレーベル先生が創造された恩物について、著者の多年の研究の結果が、平明に説かれている。恩物の研究家、ならびに幼児教育者必読の書!

株式会社 フレーベル館

セールスマンシップ



ショーマンシップ



北川台輔

足もとから鳥が飛び立つように訪日の話を持ち上り、諸方面の手統もトントン拍子に進んで、あと二週間で空路東京に向って出発する身となった。渡米以来十八年最初の帰国である。心は自然故郷に走り眼底に甦えるありし日の事物を想うにつけ幼かった頃の自分の姿を、今自分をとりまく幼ない児童達の姿と較べるともなく較べてみる。国情が異なるばかりでなく、三十年の星霜は私の少年時代と今

年九歳と五歳になる私の二児の現実との間に天地の相異をもたらした感がある。私はいま三十有余年の昔日本の片田舎で小学校に通った私と、今日シカゴの町で発育ざかりの年月を過しつつある私の子供達と、果してどちらが幸福なのかなど、当然解決のあり得ない問題を独りで想い耽っているのである。今から五年程前のことだった。日本から偶々訪れた教育者が拙宅に客となって

おられたが、お茶の時間にアイスクリームを食べようと言うことになった。私達は当時やっとならぬかならないかの長女に、どの種類のアイスクリームがほしいかを訊いた所が、即座に「チョコレート」という返事である。それを目撃した客人は「こんな小さい子でも自分の意見をチャンと持っているとおどろいたものだ」と言つて、本当に感嘆措く能はざる様子であった。この角度から見ると、アメリカで今成長しつつある幼児達は世界中で最も幸福であることに一点の疑いもないと言えるであろう。物資が豊富であるということは、選択の自由を可能ならしめる必須条件の一つである。而して選択の自由が実現する所においてこそ選択の責任を身につけることが、必要であると同時に可能になるのではないか。私も小学校の一年生か二年生の時、自立自営の大切なことを教えられ、勤勉と克己により身を立てるべきことを訓されたことを今以て忘れないのであるけ

れども、實際生活に於て子供の立場から果してどれだけのものを選択し得たであろうか。想えば何もかも親と学校の先生、そして社会の伝統とが規定してあてがって呉れたものばかりであった。「あてがいぶち」だから子供の方で、「どれにしようか」と迷う必要はなかった。二つの良さものうち一を捨てて他を選ぶ決断を迫られることもなかった。従順でさえあれば「食いっぱぐれ」ることはなかった。けれどもその半面には働けど働けど立身出世することの出来ない深刻な社会でもあった。だからいつの間にか私達の心には、自分の運命を開拓するというような積極的な態度が無くなって、何でも構はない、とにかくあてがわれたものを以て最上無比のものとして之を文句無しに受取るという心の持ち方が生活を支配する原則となっていたように思われる。またそうして規定された枠内におさまっておれない者は直ちに反逆児として危険視されたものではなかったか。

私はこのような自分の過去と比較して、今アメリカで成人しつつある子女の幸福の無限なるを想はずにはおれない。併し乍ら他の観点に立つ時、今のアメリカの児童達にはまた私達の知らなかった苦悩がないでもない。而も幼きが故に彼らはそれに気附くべくもない。それ故にこそ一層深刻な悲劇でもあるのである。ここ数ヶ月アメリカの社会は開拓時代の英雄ディヴィ・クロケットで持ち切りだ。というのはカートゥーン(漫画)の映画で有名になったウォルト・ディズニイがテレビジョンに児童のプログラムの一つとして紹介したことに初まるのであるが、それが何か目新しい流行のキッカケはないものかいつも鶴の目鷹の目である商人達の利用する所となつて、いまアメリカの若い男の児達はみんなディヴィ・クロケットの装束を身につけないでは気がすまないという状態である。何処を歩いても幼児の声高らかに歌うディヴィ・クロケットの歌が耳に入る。百貨

店でも十仙店でも、頭の先から足の先に到るまで、かぶる物、着る物、穿く物、懸ける物、廻し物、飾る物から鉄砲や刀をはじめ凡そ人智の想像し得る限りの玩具がディヴィ・クロケットの名とその肖像を入れて並んでいる。画本、レコード、ジグソー・パズル、その他幼児の生活のあらゆる面にディヴィ・クロケットは浸透し氾濫しているのである。

右の実情は何を物語るかと言えば、現今アメリカの社会はその功利主義の為に幼児を利用することを敢て辞せない社会だということである。上述したのはその最も著しい一例に過ぎない。諸種の食品を生産する会社ではテレビジョンの子供のプログラムをスポンサーして、幼児達に夫々自家生産の品を推薦するわけだ。幼児達はそれを母親にねだつてやまないし、また店に入ってみると幼児の目を惹くようにその品々が飾られているので、つい母親達もそれを買うということになるのである。自由競争を以て立て前

とする資本主義もこうして幼児達を商品
宣伝の媒介として利用するに到っては甚
だ憂慮せざるを得ないではないか。

それは嘗て自由だった幼児の世界が商
業文明の功利主義によって侵略されつつ
あることを意味するものである。幸いに
して選択の自由を保持し得るアメリカの
幼児達に、現代の経済機構を左右しつづ
ある商人層が自らの利益を促進するもの
を選抜せしめるように圧迫を加えつつあ
るのだと言つて過言でない。それは、唯
一つしか与え得ないものを「あてがいぶ
ち」としてあてがうのとはその経路に於
て根本的に異なるものではあるが、選択を
強制されるという結果に於ては異なる所が
ない。デイヴィ・クロケットが流行して
いる間は彼以外の誰をも英雄として選択
し得ない状態であるからだ。

斯様に觀察して来ると、自由を誇るア
メリカの社会でも、だんだんと自由は失
われつつあると言つて差支ない。實質よ
りも、セールスマンシップとショーマン

シップによって、無数の商品にとりまか
れた購買者を説伏し、屈服せしめ以て自
家生産品を購はしめるという傾向が甚だ
強い。一人まいになった大人にこのよう
な功利主義的な圧迫を加えるのはまだし
も稚い幼児達の心をまで之によって支配
することは、結局彼らをして自分の判断
を以て自己の最も必要とするものを選択
する決断力を失わしめる結果となるので
はないか。

崇高なる意味での個人主義を誇つたア
メリカは今日その形骸を留めているばか
りのように想えるのである。女のハット
とドレスだけは十人十色、万人万色であ
るが、誰も彼もが同じ宣伝を以てその選
択を迫られ、時代からとりのこされな
いように、(ということは流行におくれな
いようにという事以上に出でないのでは
あるが)世間から変り者扱いされないよう
に(ということは独自の意見を持たぬと
いうことに他ならぬ)気を配りつつ、心
の中はいつの間にか百人一色に染りつづ

されつつあるものようである。之は全
体主義を培うのに最も適した状態である
と言わねばならない。まことに危険な状
態である。

マス・プロダクションとマス・コミュニ
ケーションの支配する社会、而もその
支配原理が自由商業と功利主義である場
合、そこに成長する幼児達は、余程その
親達や世の教育者達が心眼を開いて、確
固たる信念と主義とを以て彼らの教養に
あたらない限り、自由社会を担つて立つ
自由主義となることは期し難いのであ
る。私は今、近く訪れんとする祖国日本
がどのような状態にあるだろうかを想像
しつつ、若しも日本が「あてがいぶち」
の実情を脱し得ざるうちにアメリカ的な
セールスマンシップとショーマンシップ
に支配されることを敢てしたとするなら
ば、そこに生育する児童達の不幸はどん
なにか深刻なものではないかと恐れを抱
かずにはおれないものである。

幼児教育としての 年中行事について

徳 久 孝

今日のわが国の社会には、色々の行事が行われていますが、其の中には昔から長い間伝えられて来たものや、新しく考えられたもの、又国民の生活にとけこんでいるもの、未だ其の域に達しないもの、そして又、全国的なもの、地方的なものなど種々様々であります。幼児も其の社会の中に生活しているのです、これらの社会行事による直接間接の影響を受けています。

社会の行事を幼児教育にとり入れることは、幼児の心理に則し、幼児の実生活を充実させるもので、まことに望ましいことであります。

然し、幼児教育としての行事はいうまでも

なく、幼児教育の目的に合致したものでなければなりません。そこで私共は数ある行事の中から、次の項目によって選ぶ事にいたしました。

1. 幼児に適したものであること。
 2. 生活指導と相俟って其の成果をあげ得られるものであること。
 3. 豊かな情操を育てるのに役立つものであること。
 4. 地域社会に則したものであること。
- なお、その取扱いについては、次の事項を考慮しております。
1. 幼稚園のカリキュラムの中におりこんで行うこと。

2. 幼児の生活に則して具体的であること。

3. 家庭と連絡して、家庭に於て目的が達成されるようにすること。

以上の趣旨のもとに、私どもの番町幼稚園で行っている行事を考えて参りました。

月別に配列して見ますと、

四月 始業式、入園式、みどりの週間、顔合せ会、花まつり、アンデルセン誕生日、フレールベル誕生日、園外保育、誕生会、天皇誕生日

五月 憲法記念日、こどもの日、母の日、身体検査、愛鳥週間、交通安全週間

六月 衣更え、虫歯予防デー、時の記念日、伝染病予防週間、父の日、お祭り

七月 七夕、終業式

八月 夏期施設

九月 お月見、老人の日、秋分の日

十月 衣更え、共同募金、運動会

十一月 文化の日、創立記念日、勤労感謝の日

十二月 火災予防週間、学芸会、歳末助け合い週間、皇太子誕生日、クリスマス

ス

一月 新年の集り、成人の日

二月 節分

三月 ひなまつり、皇后誕生日、動物愛護

週間、修了式、春分の日

となつています。其の性質により相当長い期間続けられるものと、短い期間だけしか行わないものとあります。尙年に何回か行うもの、又誕生会の様に毎月行うものは、四月にこれをのせてあります。

一つ一つの行事についてくわしく説明をのせる紙面がありませんので例として一、二左に掲げておきます。

贈り物は先生が心をこめて撮した子供の写真を台紙にはって贈り、幼稚園から自由画のノート、お友達からは、マヨネーズの空瓶に新聞粘土をはりつけ、彩色をほどこした花瓶を今年は贈る事にしています。お誕生会当日は、室の中央にお客様のテーブルを置き、花できれいかざっておきます。お客様の子供（前日に招待状をいただいた人）は別室で胸に花をつけ、皆の拍手に迎えられて席につきます。其の日の司会者はお当番の組の子供によって行なわれ、最後に皆でお祝のお菓子をいただきます。「ねらい」の所にも書いてあ

例の一 誕生会

行事	ねらい	取扱方法	備考
誕生会	友達の誕生日を祝うやさしい気持を養い、互に成長を喜ぶ	<ul style="list-style-type: none"> * 其の月の誕生の者をお客様としてお祝いの集りをする * 各組が順番に当番となり祝会のプログラムを立て、進行をする * お誕生の人に招待状を渡す * 会場を楽しい環境にととのえる * 会を楽しくする為の色々の事を発表し合う お話、ゲーム、リズム遊び、幻灯、人形芝居、ごっこ遊び、其の他 * 贈り物をする * お祝いのお菓子をいただく * 其の日に生れた人について話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 注意 * 毎月同じ形式にならないように注意する * 気候のよい時は、戸外で行ったり、静かな広場に出かけて行つてする事もあ * 個人個人にはお誕生日当日にお祝いのべ、進歩向上の機会とする * お誕生の子供の好きなお菓子を留意したり、好きな歌をうたう様な心づかいをする * 先生の誕生日も一緒に祝う

る様に、友達の誕生日を心から喜ぶやさしい気持ちを養うとともに、お誕生日の子供には、感謝の気持ちと、一つ年の多くなつた自覚を持たせ、進歩向上の機会にしたいと思

います。
以上の趣旨のもとに今年も六月十九日（第三日曜日）に父の日を行います。

以上の子供の事です。忙しい父親の事ですから六月始めに父の日を行いたいから是非其の日をあけておいてもらう様連絡をしておきました。前によって子供達は「あしたはちちの日です。どうぞようちえんにいらっしやってくださ

例の二 父 の 日

行事	ねらい	取扱方法	備考
父の日 六月第三日曜	父に対する正しい理解を持たせ、感謝する気持ちを養う	*お父さんについての話し合いをし、父についての理解を深める *父と子の集りをもつ 競技会。映画会等 *父に贈物をする。	*父の日に父の参観日、懇談日等を行い幼稚園との連絡と理解を深める

き、ボール紙の台紙に貼って壁掛けにした物を用意致しました。

当日のプログラムは

午前九時～九時半 保育参観

九時卅分～十時半 父と子の遊戯

十時卅分～十時四十分 休憩

十時四十分～十一時半 園長及教諭と父との懇談会

以上のようにくみました。九時少し前になりましたと、子供に手をひかれたお父さんが続々と来られて、或はリズムをやっている所、粘土をしている所、庭で楽しそうに遊んでいる所等を参観して居られました。九時半になっ

て講堂に入り年長組の一人一人の幼児から自分の書いた「お父さん」が挨拶をし、一緒に園歌を歌ってから、お父さんと一緒にリズムを致しました。指揮者の指導の通りに子供と一緒に手をつたり、スキップをするお父さんの楽しそうな顔。本当に童心に帰った様でした。それから年少組がお父さんと紅白球入

れの競技をし、年長は六組に分れて、手拭で走をやりました。手を引かれながらこわこわ走ってお父さん、隣の組の方まで走って行って子供に叱られるお父さん、其の愉快な事、しばらくは笑声がとまりませんでした。だいぶお父さんも汗を出されたので懇談会場で休けいしていただき、次の予定の懇談会にうつり

ました。お父さん達の意見としては、今日の此の計画を非常に喜ばれ、是非毎年やってほしい、子供と一緒にお辨当も食べる様にし、父親としての認識を深めた、等と色々な話しが出ました。最後に子供達の室にいて

一人一人の幼児から自分の書いた「お父さん」の画を贈り、楽しい半日をおくりました。これは私共の一つの計画でありまして、いつも此れと同じにするのではありませんが、父の日を中心に、父と子のつながりを一層綿密にし、幼稚園との連絡の機会とするのは本当によい事と思います。其の日の子供達の嬉しそうな顔は、今でも目に浮んできます。尚これについて不幸、父のいない子供に、お父さんの来れない人はお母さんでも、お祖父さんでもどなたでもよい事にして、淋しい思いをさせない様、先生達の細かい心づかいが必要だと思えます。成長してから父に反感を持つ子、父に不平をいだけ子にならない様、母も平素から、父に対する正しい理解を子供達に持たせる様に心がけてほしいものと思えます。

最後に、私共が此の行事教育を行うのにあたり、家庭では一体どの様にして行事教育を行っているかを調査してみましたので、御参考までに話してみます。十九の項目について三〇〇の家庭に記録を求めましたのが別表の様になって居ります。

一番多く行われていたのが子供の誕生日、

次がこどもの日になってきているのは本当に嬉しい事だと思えました。子供が無事に成長する様に、幸である様にと祈る親心のあらわれであります。復活祭とクリスマスが同じキリスト教の行事でありながら、復活祭に比較してクリスマスが非常に多くの家庭で行われています。近年クリスマスは宗教に関係なく一般の社会行事として広く行われるようになってきたと思えます。

家庭に於ける行事の実態調査

調査項目 一九 調査をした家庭数 三〇〇

	項目	行っている家庭数
○	1. こどもの誕生日	299
○	2. こどもの日	297
○	3. 節分	275
○	4. クリスマス	271
○	5. 家族の誕生日	270
○	6. 七夕	262
○	7. お彼岸	253
○	8. おまつり	246
○	9. 七五三	246
○	10. ひなまつり	246
○	11. お月見	227
○	12. お盆	226
○	13. 母の日	163
○	14. 老人の日	84
○	15. 虫歯予防デー	83
○	16. 父の日	78
○	17. 伝染病予防週間	61
○	18. 花まつり	58
○	19. 復活祭	30

○印は幼稚園で取りあげているもの。

連つて来た結果であります。さえ致します。然しこどもたちが、お友達を招いたり、家の人も一緒に楽しんで、又、サンタクロースにいつも自分がお返しを願ってほしいと思つていて、おみやげをもらつて嬉しうに待つ様な事は、幼児の夢として育ててや

虫歯予防デー

一等は、幼稚園では大きく取上げています。家庭でどの様な方法でやっているかは、全体として食事に関する事が首位を占めています。心づくしの食膳について祝う事が、幼児にとつても一番の楽しい事でありましょう。又お盆、お彼岸にもまず故人の好きであった物を作って供え、故人をしのぶゆかしい心持の現れといえましょう。

取上げています。家庭でどの様な方法でやっているかは、全体として食事に関する事が首位を占めています。心づくしの食膳について祝う事が、幼児にとつても一番の楽しい事でありましょう。又お盆、お彼岸にもまず故人の好きであった物を作って供え、故人をしのぶゆかしい心持の現れといえましょう。こどもの日が昔の端午の節句とかわつて、「郊外へ出かける」人が多かったのは、丁度機会に歯の診察を受けるとか、歯磨きのこともの日に最も適した過し方だと思つた。こどもの誕生日に御馳走だけでなく、身

復活祭		こどもの誕生日	
行っている	30	行っている	299
行っていない	270	行っていない	1
行っている方法		行っている方法	
教会へ行く	26	御馳走をし家族で祝う	285
話をする	9	贈物をする	135
その他	3	知人を招いて祝う	102
		記念写真を撮る	22
		身長をはかる	3
		その他	15
子供の日		家族の誕生日	
行っている	297	行っている	270
行っていない	3	行っていない	30
行っている方法		行っている方法	
出かけて(郊外, 遊園地)遊ぶ	147	御馳走をし家族で祝う	285
鯉のぼり, 人形, 菖蒲湯で祝う	114	贈物をする	72
御馳走をする	93	記念写真を撮る	6
子供中心に一日を送る	44	その他	20
贈物をする	10		
記念写真を撮る	6		
その他	11		
母の日		花まつり	
行っている	163	行っている	58
行っていない	137	行っていない	242
行っている方法		行っている方法	
母に贈物をする	69	話をする	36
母の喜ぶ事をする	37	お寺に行き甘茶をもらう	25
手伝いをする	35	稚児等になる	5
御馳走をする	33	その他	9
カーネーションを胸に飾る	32		
その他	7		

長をはかって
柱にするしを
つけるという
家庭がありま
した。
去年と比較
して「こんな
に大きくなっ
た」と成長を
喜び、自覚さ
せるのにはよ
い事だと思い
ました。
家庭での様
子を知り、幼
稚園は家庭と
十分に連絡を
とって一層教
育の徹底をは
かるこそ重要
な任務である
と言えましょ
う。

（東京・番町
幼稚園）

幼稚園における視聴覚教育

岩 村 幾 代

(一) 幼稚園における視聴覚教育」という研究テーマをとりあげた理由

1. 幼稚園教育を効果あらしめるために、言葉だけでは理解しにくいことを、視聴覚的な手段で指導して、保育の効果をあげる。
2. 視聴覚的教材教具を使って、どんな場合に、どのような方法で利用したらよいかを研究する。

右の二つの目的のもとに、このテーマをとりあげて研究を始めた。

(二) 当園でとりあげた視聴覚教育の範囲

視聴覚的教育といってもその範囲は非常に広いが、私共は印刷物、先生の話、直接経験

などを除いた他の視聴覚に訴えるもの、例えばラジオ、人形劇、レコード、紙芝居、スライド、写真など多くある中で、特に紙芝居、スライド、ラジオ放送について研究を進めることとし、又見る機会に恵まれることから、テレビ聴視についても併せて研究することとした。

(三) 紙芝居、スライドの評価について

子供達に喜ばれる紙芝居は、費用が少なくてすむこと、手軽にできて内容も豊富であるなど利点が多く、古くから幼稚園教育にとり入れられているが、その取扱については、ただ単に指導者の都合で見せたり、子供達の

要求で見せることが多かった。私共はそのことを反省し、紙芝居が子供に及ぼす影響の大きいことを考えて、少なくとも幼稚園で取扱われる紙芝居は、内容に応じた目的をもって教育的に使用しなければならないものだと、紙芝居を評価分類することにした。

紙芝居と同じく無条件に幼稚園にとり入れられて重要な位置を占めているスライドについても、やはり紙芝居と同じくその取扱われる場合は、誕生会とか子供会などレクリエーションとして扱われているが、私共は紙芝居について反省したことと同じ疑問をもって、その内容を検討することにした。

1. 紙芝居、スライドの一つ一つについて、どういう目的で幼児に見せるかを検討し
2. 保育内容に結びつくもの
3. 行事に結びつくもの

と大きく分け、更に保育内容のどの分野に關係があるか、たのしませるにしても、何時頃扱う内容のものであるかなど、初心者でもすぐわかるように評価をし、内容も一読してわかるようにまとめた。これで個々の紙芝居、スライドについて、内容の難易さや、一

年間の教育計画のどの場面に利用できるものかとか、どの時期に扱うものかということがわかってきたので、幼児の発達段階に基き、教育計画に関連づけて、左のような評価表を製作した。

(取扱)		月)	
題名	枚数	目的	内容

分類した紙芝居は、出し入れに便利な、保存によいケースを作り、背表紙に月別に色わけした紙をはり題名をかいた。

スライドも紙芝居と同じ方法で整理し、抽出しの中をケースの大きさに区切って並べ、台本もすぐ出せるようにした。

このように紙芝居、スライドを評価分類したことにより、私共の労力や時間が省けて取扱いが楽になり、子供達にも生活に即した紙芝居を見せることができ、興味を高め理解度を一層深めることができるようになった。併し取扱いが楽になったことに心を安んじていては保育の効果はあがらないので、なおよく内容を検討し把握してから子供達の前に立つよう心がけることはもとより、見せ方、話し

方の態度、音声についても絶えず私共はお互に批評しあつて研究を進めた。そのような時、皆さんが自分の問題として真剣にとりくみ、どんなきびしい批評にもめげず、励まし合つて苦しみの中にも暖かい情愛を感じ乍ら研究を進めることができ、指導者としての自覚を高めることができたのは、私達がとりあげた研究テーマに期待しなかった大きな収穫であつた。

(四) スライドの自作

紙芝居、スライドを評価してみても、現在既製されているものは、物語とか、子供の日常生活に起つてくるお話を題材にしたものが多く、それも単に興味中心にした娯楽的なものが多いことを感じた。勿論幼児の教育は遊びを通して行われるものであるが、これらの既製スライドは、指導者が何らかの意図をもつて扱わないかぎり、単に幼児をたのませるだけで終つてしまうという結論が出た。それで私達は、子供達の情懷を高め、言語指導に役立てるというだけでなく、直接に教育の効果をあげる為の材料に使うスライドを自作することを考えた。

毎日の教育の中で私達はよく、この場にこんな資料があつたらどんなに効果があるだろうと思うが、先ずスライドを自作するにいても、そういうことを話し合った上で、一番初めに、毎日の生活の中で是非棄けなければならぬ面の資料を作ることとした。

製作にあつて留意した点をあげてみると

1. 現実的に具体的に場面を写すこと。自分と同じような子供が登場することによって画面にとけこみ理解度を増すことを予想して人物は園児を使うこととした。場所も興味と関心をひく為に幼児に身近かな所を選び、躰けようという面を端的に表現するように要点を大きくはつきりと写した。

2. 意図するところによっては幼児の自然な様子をうつし出した。撮影は上手な方に頼んだり、又私共も写してみたが、なれないうちは背景などに気をとられて単なる生活記録写真になつてしまったこともあるが、自然な形の中に躰ける面をとらえることも効果的である。

3. スライドを見ることによって、考えたり反省したりして、説明をしなくても理解できるように画面自体に物語らせるように工夫

した。理解を助ける方法として、良い場面と悪い場面を比較することを多く取った。

自作したスライドは、番号と簡単な説明を記入したケースに入れ、時に応じて使えるように整理した。

費用は一本七五〇円、二〇こま写せるので割合に手軽な教材だと思いが、指導者として大事なことは、殊にこういう教材を使う場合、教材に使われないようにするということだと私達は反省した。作ったものを上手に生かして使うようにしなければならぬと思う。

遊びの後片付けができていなかった時、後片付けのスライドをうつして見せたことで、子供達が反省し、それからは何時も画面がぼんぼんくるかのように、上手に後片付けをするようになった。

(五) 放送の聴かせ方

子供達が皆んな一しよに、しかも強制的でなくたのしいラジオをきくには、指導者としてどのようなことを心がけるべきか考えてみた。

1. 「番組の選択」

聴取前に機関誌によって検討し、内容に応

じて教育計画と関連づけたり、又、全然目的をもたず、ただ子供達をたのしい気分にするものというように目標をもってきかせた。

2. 「環境」

保育室全体をたのしいのびのびとした雰囲気にするよう心がけ、ラジオの位置、子供達の位置についても落ちついてきける場所を選んだ、受信機については特に気をつけたが、音質、音量を適度に調節することは最も大切なことと思う。

3. 「指導」

幼児が身体的にも心理的にも、良い状態でラジオをきかれるように、聴取前の休息を充分とるようにした。暗幕をしめて室内を暗くして休息をとるようにしたら、落ちついて長い時間休息がとれ効果があった。放送直前には長い時間をかけずに興味をおこさせるような取扱いをすることを心がけた。

聴取中はなるべく放送にまかせきって共に聴くという立場をとるようにしたが、内容によっては助言したり、身ぶり手ぶりをして興味をひくようにした。併し一番大切なことは聴かせようとあせらずに、のびのびと自由に

たのしくきかせることだと思つた。

聴取後の指導は殊にむづかしく、喜んできいた子供達の気分をこわさないように、そして尙、放送聴取の目標に応じて取扱いをしなればならないが、内容をくどく繰り返したり、お説教をくつつけたりすることのないように注意した。

4. 「記録」

聴取後記録をとって、次の放送をよりよく聴かせる為の資料にした。

以上のことを心にとめて、その場に応じて放送を毎日の教育の中にとり入れてきたが、入園当初ラジオを見向きもしなかった子供達が熱心にきいている様子を見ると、うれしきで一ぱいになる。

(六) テレビ聴視について

小学校にテレビがあるので「幼児向き番組」や「小学校低学年向き」のものを見せているが、子供達はラジオ以上の興味をもって聴視している。視覚と聴覚に訴えることから非常に具体的な経験が得られて教育的にも効果があることは申す迄もないと思う、その一例として、「おむすびころりん」のお話がテレビ

で流されたので、一組だけ見て、他の一組は同じお話の紙芝居を見せ、他の一組は先生のお話で聴かせただけで、どの程度お話が理解できたか家庭と連絡して調査した。

内容を かん だ	先生が 話 をする	紙 芝 居	テ レ ビ
部分的に わかつた	15	17	25
全くわか らない	2	4	7

結果はこういうことになり、テレビを見た組は一番生れ月のおせい組であったにもかかわらず、よく理解できたことから、テレビによる効果が如何に大きいか知ることができた。

併し何といってもテレビは歴史が浅く、流されるものにも問題があると思う。テキストによって番組を選んで見せても興味がなくて、二十分という時間をもてあますこともしばしばである。しかし、見ることで聴くことが同時に出来、動きがあるので子供にとってテレビの時間は大へんたのしいものとなっている。そしてそれをより効果的にするものは、聴視前後聴視中の指導者の取扱いである

新 発 売 保 育 の た め の

か る た

定 価 50 円 ・ 〒 16 円

従来の市販のかるたと異なり、幼児のすなおな本性をまもり、その生活を豊かに育て上げるために、細心の注意を払い製作いたしました。このようなかるたが発売されることが、長い間多くの先生方、おかあさま方より望まれておりました。ぜひお子さま方にお伝え下さいますようお願い申し上げます。

特 徴

文は幼児の単純にして発動的な語句を選び、絵は喜びに満ち溢れた明るい感じを映し出し、なお数枚の絵を幼児が貼紙を用いて未完の部分完成させるように新工夫いたしました。

ことは、放送の場合と同じである。これはなかなかむづかしい問題であり興味のあることから、今後も研究を続けたいと思う。
以上は本園が昭和二十九年度の東京都研究

指定幼稚園として、昭和三十年六月二十日に公開発表し、当園に於いて実施保育、そして研究発表を行ったものである。
(東京・南山幼稚園)

株 式 会 社
フ レ ー ベ ル 館

倉橋記念文庫について

倉橋惣三先生は、去る四月二十一日急遽他界せられました。先生は播磨時代に於て我が国の幼児教育を、博い学識と深い思想とをもつて講演著述に、その理論と実際とを全国の幼稚園にまで導いて下さいました。

この幼児教育の父、倉橋惣三先生を永く記念するため幼児教育に関する図書を集めて倉橋文庫とし、お茶の水女子大学図書館に寄贈して末永く先生の御業績を偲びたいと存じます。左記の要項により多くの方が賛同御拠金下さいますようお願い致します。

なお、御拠金下さいました方々の御芳名は「幼児の教育」誌上に掲載して御厚意を謝し、受領証にかえさせていただきます。

記

拠金額 一口百円以上

期日 昭和三十一年二月末日

送金先 東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

倉橋記念文庫係

昭和三十年十二月

發起人

お茶の水女子大学附属幼稚園長	及川ふみ
お茶の水女子大学家政学部児童研究室	津守真
お茶の水女子大学保育実習科	山村きよ
卒業同窓会「みどり会」代表	入江ヤス
お茶の水女子大学附属幼稚園卒業代表	御木本美隆

倉橋記念文庫

御協力のお芳名

かねてより、私共相はかり、倉橋記念文庫の計画を企て御協力をお願いいたしましたところ、幸い皆様方の御賛同を頂き、多分の御拠金を賜りましてまことに有難く存じました。つきましては十一月五日現在までの御芳名を左に掲載させていただきます。御協力を謝し、受領証にかえさせていただきます。(発表は到着順・敬称略)

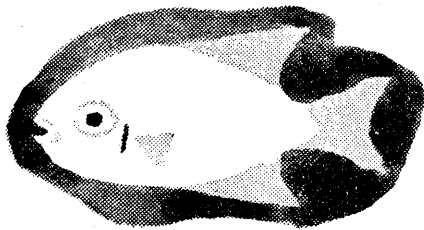
昭和三十年十一月五日

倉橋記念文庫係り

代表	及川ふみ
	津守真
	山村きよ

昭和三十年度研究 集会をかえりみて

玉
越
三
朗



今年の幼稚園研究集会も無事に終わりました。神奈川（鎌倉市）および岡山（倉敷市）両会場とも、例年にはない参加者のよき事前研究と積極的な研究態度および指導者司会者のよき援助によって、今までにない成果が得られました。以下本年度の実施の重点や研究成果の概要等について、今後参考となると思う点を述べてみましょう。

一、研究集会の目的

研究集会の目的は例年のように「幼稚園教育の当面する諸問題をとりあげ、これを参会した教職員の共同研究によって解決し、その成果を実践の場に普及して幼稚園教育の振興を図る」としました。従来は、参加者がこの目的をじゅうぶん理解しないで参加し、参加としての協力的態度や研究がふじゅうぶんであった人がいたので、よい成果があらなかったうらみがありました。そこで今年には事前に各都道府県へお願いして、じゅうぶんこのことを理解して参加するようにいたしましたところ、各自がその研究問題について事前に非常によく研究しプリントして来ました。またその研究態度も「参会した教職員の共同研究によって解決する」という趣旨をよく理解して常に積極的に大変よい成果があげられました。これは、本年度研究集会の大きな成果の一つでした。

二、研究主題の選定

研究問題は、幼稚園教育の当面する諸問題をとりあげるのであるが、それは幼稚園教育の振興を図ることに重点が置かれなければ

ばなりません。そこで現在問題となっていることをこの観点からいろいろ検討しました結果、(一)直接幼稚園の教育内容や指導を向上させるための問題。(二)間接的に幼稚園教育を向上させる、つまり幼稚園をとりまく社会についての問題をとりあげることになりました。そこで(三)については大体経験領域をもととして四問題(四)については家庭教育について一問題とりあげることになりました。以下各問題をとりにあげた趣旨を簡単に述べてみましょう。

1 幼児を集団生活に参加させるにはどのような方法が適切か
幼稚園の使命の一つは、特別につくられたよい環境の中で幼児同志の集団生活をさせることです。この集団生活に参加できるようにさせることは幼稚園の任務のうち大きなものです。そこでこのような集団生活に初めて参加する幼児を一体どのように指導したらその目的がじゅうぶん達せられるかについて検討してもらうことにしました。また、一般的な参加のさせ方をして指導してもどうしても参加できないような幼児については、特にどんな点に留意して指導したらよいかを研究してもらうことにしました。

2 遊具による健康の指導はどのようにしたらよいか

遊具は幼児の健康の増進になくはならないものですが、その使用法や指導法については従来あまり研究されていなかったの、前年に引続いて今年もさらに検討してもらうことにしました。

3 数遊びの指導はどのようにしたらよいか

幼稚園ではとかくこの指導に適正を欠いて幼児の成長発達を度

外視して数字を書かせたり、数を唱えさせたりすることがあります。この傾向が最近特に目立って来ましたので、幼稚園の正しい方から考えて、数遊びをどのように指導したらよいか、また数遊びの内容上の限界をどこに置かかなどについて検討してもらうことにしました。

4 言葉の指導はどのようにしたらよいか

(神奈川会場のみ) (省略)

5 自然の指導はどのようにしたらよいか

(岡山会場のみ) (省略)

6 幼稚園教育の効果をあげるために家庭教育との関連をどのようにしたらよいか

幼稚園がその教育目的を達するには、幼稚園で行う教育と家庭で行う教育とが有機的に関連しなければならぬことはいうまでもありません。ところが現在ではそれどころか、家庭の一方的な幼児観を幼稚園に押しつけ、幼稚園がこの要求に堪えきれないで本意ながら幼稚園本来の使命を変更していくというようなことも起ってきています。そこで家庭の無理な要求をどのように防いだらよいか、また幼稚園の正しいあり方を家庭に理解させるにはどうしたらよいかについて検討してもらうことにしました。

三、研究結果の概要

1 幼児を集団生活に参加させるにはどのような方法が適切か

(神奈川)

(1) 入園時における指導はどのようにするか

(一) 家庭との連絡をじゅうぶんとする。

入園前の調査をよくする。保護者が子どもの理解を誤っていることが多いので啓発する。

(二) 幼児を受け入れるための環境構成をする。

(三) 入園当初の教育計画を生活指導を重点としたものとする。

(2) 集団になじまない子の指導

(一) 教師が安定感をもって接する。

(二) 技術的注意をじゅうぶんにする。

作業による方法、グループによる方法、童話スライド等による間接的指導などをその子に即して活用する。

(三) 教師の手におえない幼児は外部諸機関との連携、両親教育の推進を図るようにする。

〔岡山〕

(1) 入園当初の指導はどのようにしたらよいか。

(一) 幼児に早く新しい集団の中において安定感をいだかせる。

(二) 入園当初集団生活のきまりを身につける。

(2) 幼児教育における集団の構成はどうすればよいか。

(一) 組編成は年令差あるいは一年保育では月令差によることが妥当で、それに地域差を加味する。

(二) 自由遊びにおいては、遊びの種類によって異なるようにする

(3) 特殊な子どもの指導はどうするか、

(一) 正しい診断によって原因を早く発見する。

(二) 環境条件によって治療可能なものはその方法を幼児に即して考えるが、素質的条件によるものは適当な機関と連絡して治

療する。

(三) 小学校へ進んだ時、連絡ふじゅうぶんで逆戻りする場合はあるから、注意を要する。

(4) 集団生活を助成するための環境はどのようにすべきか(省略)

2 遊具による健康の指導をどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 健康増進を考えると考えられ、一般的に使用されている遊具の種類にどんなものがあるか。

(2) 健康増進を推進させるために必要な遊具の使用法。

(3) 将来正しい健康指導を行う上に必要な遊具の使用。

(一) 幼児の遊具使用の選択

(二) 幼児が用いる遊具の使用時間

(三) 遊具の種類および設置数と園児数との関係

(4) 遊具が健康を増進させたかどうか。

〔岡山〕

発達段階、健康指導、安全教育、利用度についての観点から次の遊具の検討をした。

(一) 固定遊具(戸外)

(二) 移動遊具

(三) 室内遊具

(四) 施設

(五) 教師の手による創作遊具

3 数遊びの指導はどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 数の指導の限界をどのように考えるか。

(一) 数を唱えたり、数えたり、読んだり、書いたりする。

(二) 数の採作（計算の素地）をする。

(三) 測定について理解し始める。

(四) 表を作る。

(五) 分数の素地について知る。

(六) 身近な問題を具体的に解く能力を伸す。

(七) 物の形を区別する能力、幾何図形を認める能力を伸し始める。

(2) 数の指導の方法

(一) 数遊びの種類

(二) 個人差に応ずる指導

(三) 数遊び指導上の留意点

〔岡山〕

(1) 幼児の数に対する関心を高めるにはどうしたらよいか。

(2) 数遊びを通しての数量形の指導はどのようにしたらよいか。

4 言葉の指導はどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 所謂幼稚園言葉をいかにしたらよいか。

(2) 「語らい」を豊富にするためにはどんな方法があるか。

(3) 書き言葉（文字）の指導の可否。

(4) 話し言葉（発表能力）の指導はどうすべきか。

(5) 語感の矯正指導はどうしたらよいか。

5 自然の指導はどのようにしたらよいか

〔岡山〕

(1) 自然の指導のために環境をどのように整えたらよいか。

(2) 幼児の発達段階に即した「自然」の指導内容はどの程度にしたらよいか。

(3) 教師の研修の機会や方法はどのようにすればよいか。

6 幼稚園教育の効果をあげるために家庭教育との関連をどのようにしたらよいか

〔神奈川〕

(1) 正しい幼稚園教育と必要性とをいかに家庭に理解させ協力させるか。

(2) 地域社会との関連をどうするか。

(3) 卒業生との連絡をどうするか。

〔岡山〕

(1) 家庭教育の実態把握の方法はどうしたらよいか。

(2) 経済状態並びに教養の程度により幼稚園教育に消極的な保護者に対してはどうするか。

(3) P・T・Aの組織運営並びに各種の会合を実質的、効果的にするにはどうしたらよいか。

(4) 幼稚園教育の本質を一般の保護者にじゅうぶん理解させるにはどうしたらよいか。

「幼児の教育」第五十五巻の新年号を迎える。

幼児教育も既にその揺籃時代を脱して、我が国においても、七十数年の歴史を経て来た。しかし年月を経ることによって、それだけその中にある問題が解決されたことにはならない。新しい問題が次から次へと生れてきて、その解決を迫っている。人生で七十数年と云えばすでに老境である。だが幼児教育はまだ青年期にやっと達したところと云えないだろうか。

隣接学問の進歩とともに新しく開けてきた視野の中で、多くの悩みと問題とに直面し、己れを見出そうとして努力しているのが、幼児教育の現在の姿ではなからうか。

このときに当ってすでに半世紀を経過して、世紀の後半

に入った本誌の編輯の方針を自ら問い、又読者諸氏の認識を願ひ、批判と御協力を乞ひたいと思うのである。

「幼児の教育」編輯の基本方針は、長年にわたって本誌の目指してきたものとかわらな伴なうて、幼児教育の関心は移り、幼児教育の方法は変革され、改良されてゆくが、幼児の教育が人間の教育を目指し、深い人間性に立脚して、幼児期の教育の問題を真摯に考究しようとする態度は、五十年の昔も今もかわらないものである。又、かつてはならぬものである。本誌は人間教育としての幼児教育の基本的な考え方の上に立ってきたし、またこれから先も、幼児教育が人間の教育であることをはっきりと認識してゆくであろう。

幼児教育は上級学校への準備教育でもないし、或る側面だけを伸ばそうとする天才教育でもないし、機械化された生き物を作るものでもない。それは生きた人間の教育である。幼児なればこそ、尙更そうである。したがっ

て、我々はたえず、生きた人間に対する洞察力と理解力を養ひ、深める必要がある。

第二に基本的な精神は、幼児教育の創始以来、変らないものであつても、時代とともに社会が変化し、学問が進歩するとともに、幼児教育の関心は変るし、方法論は進歩するという事実を認識せねばならない。社会は動いており、幼児教育自身も動いている。停止とすることはあり得ず、停止したときにはすでに後退しているのである。我々は、生きた人間に目を注ぎながら、新らしく進展する学問分野を理解しつつ、幼児教育を前進させてゆかなければならない。幼児教育は人間を対象とするだけに、その関聯する分野も広く、その各分野の日々進歩する成果をとりいれながら、自らを養なうてゆくことは容易でない。しかし何らかの方法によって、隣接諸分野を消化し、特に心理学、教育学の研究成果を綜合しなから進むことが要求されているのである。

第三に、幼児教育自身の分野において、研

編 集 後 記

究と実際とが工夫され、向上してゆく努力がもっと払われなければならぬし、ここに我々の具体的な働らきがある。幼児教育としての研究がもっと集積されなければならぬ。この点について、従来

困難を感じてきたことは、教育の実際と理論がなかなか直接に結びつかないことであつた。その解決には、どうしても、もつと現場

の問題点が把握され、諸方面の協力によって研究が推進されなければならぬ。現場では正確な研究が期し難いけれども、たとえ多少不正確でも、現場の工夫や研究がもっと出でこなければならぬのではないだろうか。それがどのような形でないうるかということも事後が、今後の問題であろう。従来、現在の現場の条件では、到底理想的な保育は行なえないと云って投げ出す傾向はないであろうか。或いは、何か一つの理想的な型にだけ固執し

て、現在与えられている条件で最善の保育がなし得ないというような錯覚がないだろうか。たとえささやかな工夫、研究であつても、与えられた条件で、最もよい保育を行なうための工夫や努力の発表が必要であると思ふ。

第四に、幼児教育の当面している諸種の問題の問題点が明確にされ、いろいろの側面から検討され、意見がかわされることが必要である。今や、解決を迫られている問題は、行政管理の面において、教育の内容について、指導法について、家庭との関聯について、上級学校との関聯について、等々、あらゆる面において山積している。それらの事柄について、先づその主たる問題点が何処にあるのかを認識しなければ、解決がなされないであろう。そしてその解決のために、各方面の意見が遠慮なく披瀝され、検討され、又その参考資料が得られてゆかなければ、解決に達しな

ういであろう。解決しないで持ちこしてしまつと、どこかに癌ができて、正当な発達が阻害されてしまつことは、これまで到我々のしばしば見てきたところである。健全にして正當な斯界の発展のために、諸種の問題に関する問題点を明らかにし、解決のための建設的な努力を払うことが必要である。

第五に我々は視野を広げて、我が国の幼児教育界の世界史の中に立つ位置を認識せねばならない。東西両文明の中間に立つて、政治的にも精神的にも混乱した時期にあって幼児教育の担うべき使命は重い。それは単に一日限りの保育で済まされない面を持つている。幼児教育の対象としている幼児は、次の時には、世界の舞台の上に立たされる運命を荷つた人間なのであるから、今日の保育は今日だけで済まされないのである。我々は視野をひろげて、子どもに与えてゆく文化を検討してみなければならぬ。

それとともに、幼児教育界としても、広く海外の幼児教育界の事情を知ることが必要である。これはもちろん、輸入することを意味するのではない。我々の中にある問題は、我々の協力によって解決せねばならず、それによって始めて我々の社会の向上がある。それとともに、世界の幼児のことを考えつつ、我が国の幼児教育界が世界の幼児教育界に貢献なしうるようにしたいと思う。

最後に、我々が考えねばならぬことは、幼児が幼児教育機関のためにあるのではなく、幼児教育機関が幼児のためにあるのだということである。幼児教育のことを論ずるときに、その関心はどこまでも子どもそのものである。子どもに関するあらゆることが、こゝでの関心事である。

多少大きな事柄を並べたて、そんなことをどこまで果しうるか分らないのであるけれど

も、これは編輯子としての願いである。要するに、我が国の幼児が最もよく育ち、よりよい社会をつくってゆくことができるように、我々が協力して建設的な努力をすることが、二十世紀後半の幼児教育界の課題であると思う。そして本誌がその一助となることを、心から願っている。

(本号よりフレールベル館の御厚意により増頁になりました。)

× × ×
× × ×
× × ×

幼児の教育 第五十五巻 第一号

定価金五十円

昭和三十年十二月二十五日印刷

昭和三十一年一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

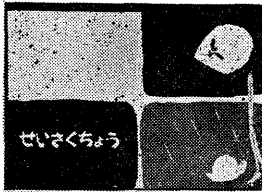
東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレールベル館

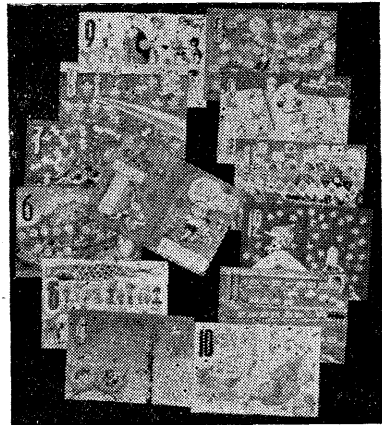
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレールベル館にお願い致します。

新学期用品は定評のあるフレーベル館で!!

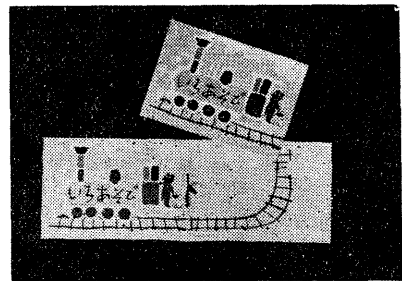


せいさくちょう



出席カード

昭和三十一年度の新学期用品が完成いたしました。昨年より一層よい出来栄だと、自負いたしました。昨画界の重鎮武井武雄先生が一生懸命つくってくださった出席カード、美しく楽しい装幀のせいさくちょう・じゆうがちょう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよんなど、いずれも幼児教育にはなくてはならないフレーベル館の新学期用品です。なお、右のほかに別記の通り、いろいろと取揃えてございます。お申込みは、フレーベル館または代理店へ!



いろあそび

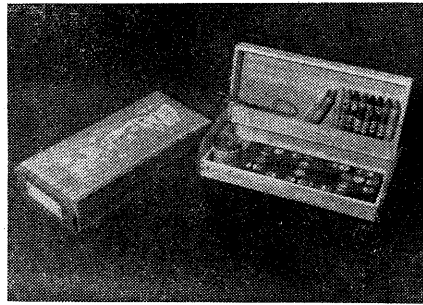
番号	品名
四七	園籍簿(用紙)
七二	出席簿(用紙)
四八	身体検査表(用紙)
四五	保育日誌A(用紙)
四六	保育日誌B(用紙)
四一	幼児指導要録(用紙)
五三	卒園台帳(用紙)
四三	児童票(用紙)
五六	保育証書大(A)
五四	保育証書大(B)
五七	保育証書小
六二	賞状用紙(A)
六三	賞状用紙(B)
五八	園児募集ポスター(A)
五九	園児募集ポスター(B)
六〇	園児募集ポスター(C)
五〇	園のたより
五一	つうえんブック

新学期用品は定評のあるフレーベル館で!!

番号	品名
七五	綴込表紙
一〇一	出席カード
一〇三	出席カード用貼紙
五五	保育料袋
一九	せいさくちよう大
一一八	せいさくちよう小
一一一	ぬり え(1)
一一二	ぬり え(2)
一二五(1)	じゆうがちよう特(1)
一二五(2)	じゆうがちよう特(2)
一二六	じゆうがちようA
一二七	じゆうがちようB
一二八	じゆうがちようC
一七〇	たのしいおしごと(新版)
一六七	えあ そび
一一三	いろあ そび
七四	出席ゴム印紙箱
七三	出席ゴム印(木箱)
一六〇	はさみ



園児募集ポスター



まんてんくれよんとおどうぐばこ

番号	品名
一五四	まんてんくれよん 12色
一五六	まんてんくれよん 10色
一五七	まんてんくれよん 8色
一五八	おどうぐばこ(木製並)
一五〇	おどうぐばこ(木製特)
一五九	おどうぐばこ(紙製)
一七一	札名別組(桜型)
	赤色
	黄色
	緑色
	桃色
	白色
	藤色
	水色
	青色
	橙色
一三一	紙特製五寸
一三二	紙特製四寸
一三三	紙並製五寸
一三四	紙並製四寸